

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県

自治体名：高知県

担当課名：教育委員会事務局 保健体育課

電話番号：088-821-4900

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	7,104km ²
人口	645,397人
公立中学校数	93校
都道府県立中学校数	3校
公立中学校生徒数	12,416人
都道府県立中学校生徒数	524人
部活動数 (運動部活動のみ)	656部活
都道府県立中学校部活動数	32部活
都道府県立中学校における地域クラブ活動数	0クラブ
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における都道府県の現状・課題

県内の学校数・生徒の推移について、平成24年以降の統計では、右の表のように全ての数値が減少している。

令和7年度、34市町村に公立中学校は93校ある。そのうち、17市町村は中学校が1校のみである。

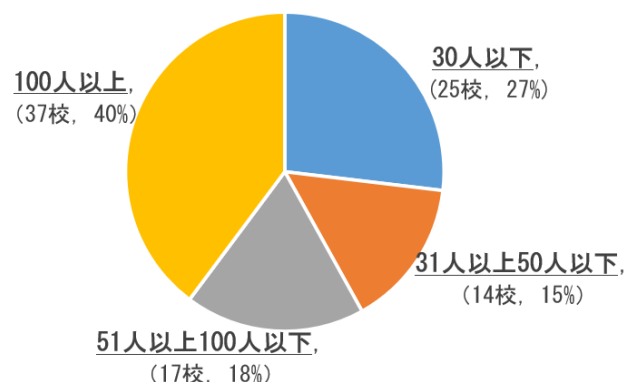
また、学校規模では、全校生徒30人以下の中学校数が25校、31人以上50人以下の中学校が14校、51人以上100人以下の中学校が17校で、実に約60%の中学校が100人以下の状況である。

これらの小規模校では、団体競技にてチームが組めないなどし、部活動が減少している。

	公立中学校数	生徒数	運動部活動数	運動部部員数
平成24年度	114	16,151	998	12,583
令和4年度	98	13,196	962	9,497
令和7年度	93	12,416	656	6,666

令和5年度から、各市町村が国の実証事業等を活用しながら、子どもの活動の機会確保及び選択肢を広げるために、関係機関と連携しながら子どものスポーツ環境の整備に取り組んだ結果、令和5年度は5クラブだった地域クラブ数が令和7年度には46クラブにまで増加した。

<高知県の公立中学校における全校生徒数の割合>



(1) 高知県内公立中学校(学校数・生徒数)

● 平成24年度

【中学校数】114校
【生徒数】16,151人

● 令和7年度

【中学校数】93校
【生徒数】12,416人

【参考】1市町村1中学校:17市町村/35市町村

(2) 地域クラブ、拠点校部活動

● 令和5年度

【地域クラブ数】5クラブ
【拠点校部活動数】0部活動

● 令和6年度

【地域クラブ数】25クラブ
【拠点校部活動数】4部活動

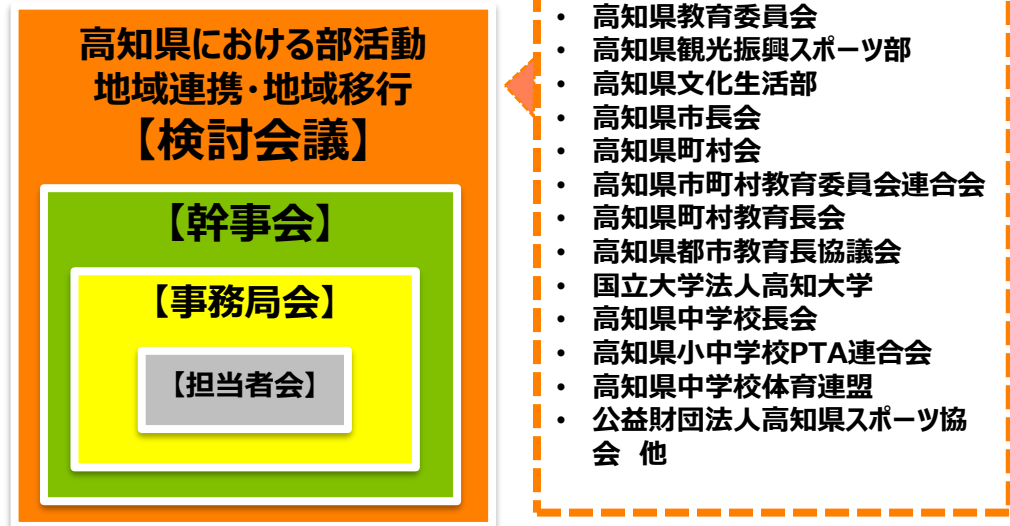
● 令和7年度

【地域クラブ数】**46クラブ**
【拠点校部活動数】**9部活動**

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●都道府県における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（保健体育課）

- ・ 県の幹事会、検討会議の実施
- ・ 実証事業の実施

◎首長部局（観光振興スポーツ部スポーツ課）

- ・ 地域人材の発掘 ・ 広域でのスポーツ振興事業
- ・ 指導者確保に関する事業 ・ 小学生のスポーツ環境整備

◎コーディネーター

- ・ 各市町村教育委員会との連携
- ・ 広域での地域展開等の推進

年間の事業スケジュール

令和7年4月	博報堂と県の委託契約
令和7年5月	担当者会・事務局会 県と3市と委託契約
令和7年7月	第1回幹事会 地域展開に係るアンケート実施
令和7年10月	第2回幹事会
令和7年11月	市町村協議会 博報堂実証事業中間検査
令和7年12月	第4回検討会議 部活動ガイドラインの改訂
令和8年1月	第3回幹事会
令和8年2月	第5回検討会議 3市委託契約終了
令和8年3月	高知県部活動ガイドラインの改訂 県の実証事業終了 博報堂との契約終了

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 県総括コーディネーターによる各市町村の協議会等への参加及び指導助言。
- ・ 市町村をまたいだ広域での協議会の開催。
- ・ 事例報告及び意見交換会の実施（11月）。
- ・ 先進県を招いた市町村協議会の開催（11月）。

取組の成果

- ・ 県内全市町村への訪問、協議会等への参加、地区別での会議等をとおして、特に令和8年度以降の取組について、方針の周知が図れた。
- ・ 小規模自治体の多い2地域で広域での協議会を開催し、市町村をまたいだ取組について具体化できた。
- ・ 先進県（長野県南佐久地区）を招いた協議会では、成功事例の話を直接聞くことで、各市町村の意識向上が図れた（事後アンケートから）。

今後の取組における課題

- ・ 幅広い機関（企業や大学、スポーツ関連団体等）との連携。
- ・ 広域での取組を取りまとめる人材の発掘。
- ・ 地域展開等への機運の醸成。

課題への対応方針

- ・ 指導者不足に対する大学生の活用について地元大学との協議。
- ・ 県内での好事例（コーディネーターの活用等）を横展開することで、人材発掘の情報共有を図る。
- ・ 様々なチャンネルを活用した広報活動の実施。

関係団体・市町村等との連絡調整等に関する取組

- ・ 総括コーディネーターによる各市町村の訪問（年30回）。
- ・ 各市町村における協議会等への参加（16市町村）。
- ・ 広域での協議会の立ち上げ（中芸地区、仁淀川地区）。
- ・ 市町村協議会、意見交換会の開催（1回）
- ・ 知事部局主催の地区別会への参加（6地区×3回）
- ・ 中高校長会での説明

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・ 資質向上のための研修の受講を促進
- ・ 指導者の養成・確保、照会システムの検討（知事部局）
- ・ 県スポーツ協会との連携を図り、指導者の養成・照会
- ・ 各市町村において、地域クラブ指導者の研修受講状況を確認
- ・ 各市町村を通じて、県主催研修会への参加の呼びかけ

取組の成果

- ・ 本年度から部活動指導員向け研修会への地域クラブ指導者の参加
- ・ スタートコーチ登録者数
（ジュニアコース）令和6年：165人→令和7年：232人
（競技別） 令和6年：84人 →令和7年：109人

＜日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定者数【高知県】＞

【令和7年10月1日現在】

指導者資格	資格別認定者数					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7
スタートコーチ （ジュニア・ユース）			50	87	165	232
スタートコーチ （教員免許状所持者）			1	3	7	8
スタートコーチ （競技別）	40	55	81	97	84	109
コーチ1	1,031	1,025	1,057	1,083	1,063	1,073
コーチ2	72	70	76	81	73	73
コーチ3	202	218	225	254	250	261
コーチ4	46	46	50	48	49	54
アシスタントマネージャー	56	55	60	60	55	56
その他	142	188	248	350	417	419
合計	1,589	1,657	1,848	2,063	2,163	2,285

今後の取組における課題

- ・ 特に中山間地域における指導者の確保
- ・ 兼職兼業の取扱いの周知
- ・ 研修会の拡充、充実

課題への対応方針

- ・ 地区別での指導者養成講習会の実施
- ・ 新たなガイドラインにて兼職兼業の取扱いについての周知
- ・ 関係機関と調整し、研修会等の拡充、充実に向けた取組の推進

人材の発掘・マッチング・配置に関する取組

- ・ 県スポーツ協会への照会にて指導者のマッチングを実施
- ・ 地元大学と大学生の活用について協議

安全・安心な活動の実施に関する

- ・ 暴力、ハラスメント等の防止に関する研修会を実施
- ・ 安全、安心な活動について新たなガイドラインに記載

研修、資格取得促進に関する取組

- ・ 指導者向け研修会の実施
- ・ 各市町村が地域クラブ指導者に対し研修会の参加について義務付け

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・ 知事部局と連携し、子どものスポーツ環境整備を促進
- ・ 公認指導者資格の取得に向けて、県スポーツ協会と連携

取組の成果

- ・ 地域展開を実施するための初期費用について、県（知事部局）から支援
- ・ 公認指導者資格保持者の増加（前項参照）

今後の取組における課題

- ・ 市町村内で教育委員会と首長部局との連携が不十分な事例があった。（調整役の不在等）
- ・ 県のアンケート調査（令和7年7月）結果から、地域展開に対する保護者の不安として、「移動手段」が最も多かったため、公共交通を含めた関係機関との連携が必要である。

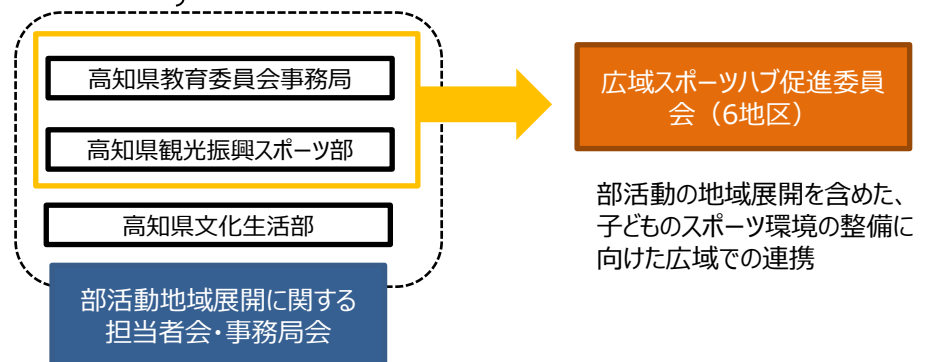
課題への対応方針

- ・ 各市町村の首長部局向けの会議等（知事部局主催等）にて、さらなる取組周知を図る。
- ・ 次年度以降、交通部局等との協議を行い、生徒の移動に関する支援について検討を行う。

体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携に関する取組

- ・ 地元大学では、部活動の地域展開に関わる調査を大学生に行い、指導者として参加することについて検証を実施
- ・ 県スポーツ協会とは、指導者の紹介等について連携

〔主な連携例〕



部活動の地域展開を含めた、子どものスポーツ環境の整備に向けた広域での連携

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 単独市町村での取組が難しい場合、県が近隣市町村との調整を実施

取組の成果

- 2地区で広域での協議会を実施

今後の取組における課題

- 市町村をまたいだ地域クラブへの参加の場合、各市町村にて支援方法が異なることから、活動に支障をきたすケースがあった。
- リーダーシップをどの市町村が取っていくか難しさが見られた。

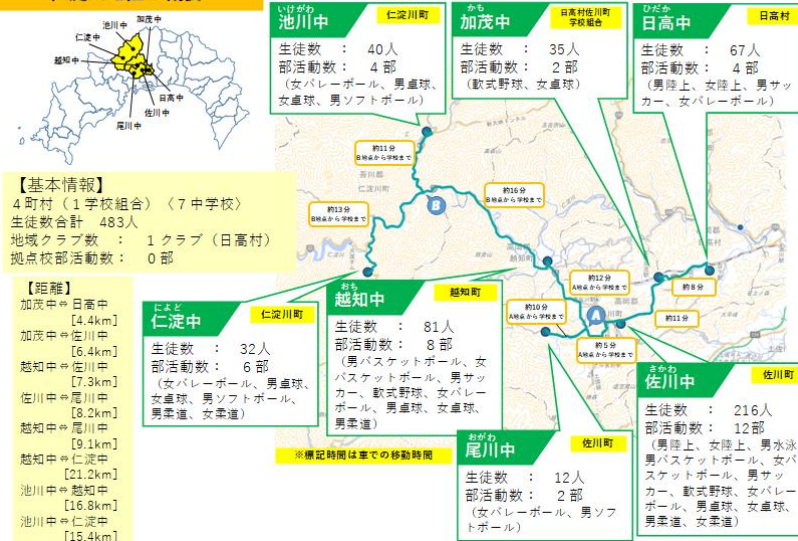
課題への対応方針

- 具体的な取組を行っている場合、関係者による具体的な支援方法について協議する。
- 教育長等の協議を含め、各地域の実情に応じた対応を検討する。

市区町村等を越えた取組

- 仁淀川地区（仁淀川町・越知町・佐川町・日高村・日高村佐川町学校組合）での協議会を立ち上げ、年間4回開催。
- 中芸地区（馬路村・安田町・田野町・奈半利町・北川村）での協議会を立ち上げ、年間2回開催。

仁淀川地区の概要



中芸地区の概要



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 3市の事業における収支構造を検証
- 各市町村に自主財源を確保する取組や事例を紹介

取組の成果

- 地域による活動経費の違いを把握（幡多地域では移動にかかる経費が想定より大きくなった等）
- 会費だけでは子どもの活動参加が困難であり、公的支援の必要性を再確認

今後の取組における課題

- 地域によっては生徒の活動時間に利用可能な移動手段が非常に少ない。
- 県内では、市町村をまたぐ地域クラブへの参加は多く見られるため、生徒への公平な支援について市町村間で協議が必要。

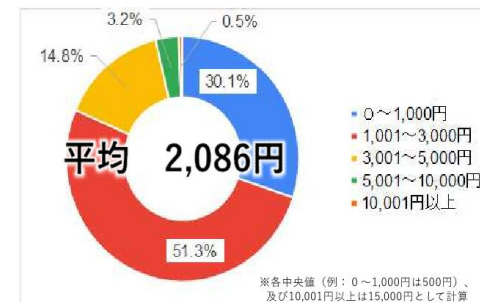
課題への対応方針

- 移動手段の確保について、交通部局との連携を図り、公共交通機関の利用について協議する。
- 国、県の補助事業の活用を市町村に周知する。また、市町村間の協議が円滑に進むよう取組を支援する。

費用の在り方に関する取組

- 県内小学5、6年生保護者、中学1、2年生保護者へのアンケート調査（令和7年7月）を実施し、現状を把握
【回答数】小学5、6年生：3,271名 中学1、2年生：2,901名

（問）適当と考える毎月の会費（月謝・集金等）はいくらですか



（問）毎月の会費（月謝・集金等）について教えてください



（問）適当と考える毎月の移動に関する費用（※バス代、電車代、ガソリン代等）はいくらですか



（問）毎月の移動に関する費用（※バス代、電車代、ガソリン代等）について教えてください



2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●県内アンケート調査

<調査の目的>

- 令和4年度県内アンケート結果と比較し、変動を把握する。
- 令和8年度からの国の方向性を踏まえ、今後の取組を検討するうえでの基礎データとして活用する。

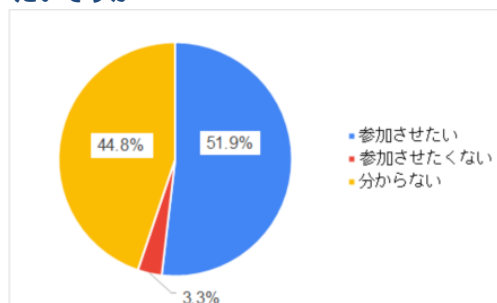
<調査期間及び調査方法>

- 令和7年7月1日～7月31日
- ※Googleフォームによるオンライン回答

[実施期間]	回答者数	対象者数	回答率
①小5・6児童	8,019人	9,742人	82.3%
②中1・2生徒	5,565人	8,197人	67.9%
③小5・6保護者	3,271人	—	—
④中1・2保護者	2,901人	—	—
⑤中学校教員	1,090人	1,481人	73.6%
合計	20,846人	—	—

③小学校第5・6学年保護者

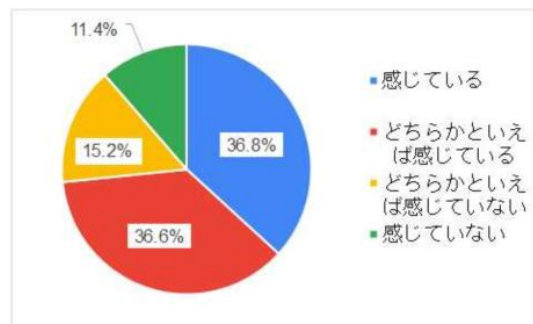
現在、国は部活動の地域展開（地域移行）を進めていますが、これから中学校の部活動が、地域クラブ等での活動になった場合、お子様を参加させたいですか



- 地域クラブ等への参加意向について、令和4年度から大きく増加（小学生令和4年度:23.5% → 令和7年度:51.9%）
- 不安な面として「送迎の負担」が70%以上

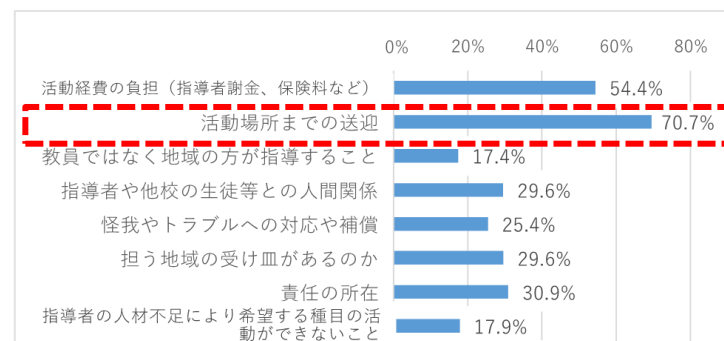
⑤中学校教員

部活動の指導や運営を負担に感じていますか

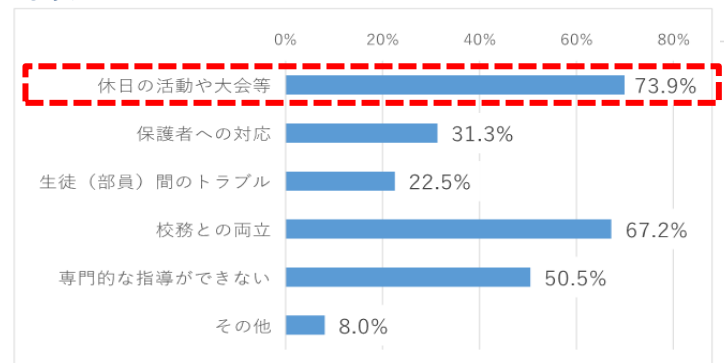


④中学校第1・2学年保護者

学校部活動を地域クラブ等が担うことについて心配すること（※複数選択可）



【①感じている ②どちらかといえば感じている】と回答した方
部活動顧問（副顧問）として、どのようなことに負担を感じていますか



- 部活動指導に「負担を感じている」と回答した教員は増加（令和4年度:63.1% → 令和7年度:73.4%）
- 理由として「休日の活動や大会等」が73.9%で最も多い ●地域展開等への意向は、90%以上が「賛成」または「どちらかといえば賛成」

2.実証内容と成果③

参考資料



【高知県における部活動地域展開等に関する市町村協議会】



【高知県における部活動地域展開等に関する市町村協議会】



【第4回高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議】



【第5回高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置
部会での検討開始

【関係機関】

- ・ 市町村教育委員会、県中体連、県スポーツ協会

【経過】

- ・ 高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議（2回）
部活動の地域移行に伴う課題対応等について
高知県部活動ガイドラインについて
令和6年度事業計画について
- ・ 3部会（7回）
地域連携・地域移行について課題の洗い出し等

【実施にあたって生じた課題】

- ・ 中山間地域での受け皿
- ・ 大会参加規定（県中体連）等
※地域クラブから学校部活動へ戻ったケースあり

【実施内容、工夫した点 等】

- ・ 県中体連との連携
- ・ 地域クラブ、拠点校部活動の参加規定を作成

令和6年

市町村との連携
生徒、保護者への説明

【関係機関】

- ・ 市町村教育委員会、県中体連、県スポーツ協会

【経過】

- ・ 高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議（1回）
県内地域移行実証事業の報告会について
市町村意見交換会について
令和7年度事業計画について
- ・ 3部会（5回）
地域移行に伴う課題対応等について
- ・ 事業の報告会・市町村意見交換会（1回）

【実施にあたって生じた課題】

- ・ 移動手段、費用の確保（主に小規模校）
- ・ 令和8年以降の支援が不確定なため、取組に踏み出せない等

【実施内容、工夫した点 等】

- ・ 先進県の好事例を横展開し、市町村の取組を推進

令和7年

高知県の方針を策定

【関係機関】

- ・ 市町村教育委員会、県中体連、県スポーツ協会

【経過】

- 部活動改革に関するアンケート調査の実施（7月）
[対象]小学生（5、6年）中学生（1、2年生）
とその保護者、中学校教員、各市町村
（※令和4年実績約22,000人）
[検証]調査結果を踏まえ、県の方針を検討
- ・ 高知県における部活動地域連携・地域移行検討会議（2回）
高知県の部活動改革に関する方針について
- ・ 幹事会（3回）

【実施にあたって生じた課題】

- ・ 小規模自治体の取組、市町村間での調整等

【実施内容、工夫した点 等】

- ・ 国のガイドライン見直しに合わせ、県のガイドラインを新たに策定し、県内の取組推進を加速化

令和8年以降

地域クラブ活動への移行

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県南国市

自治体名：高知県南国市

担当課名：学校教育課

電話番号：088-865-8015

1.自治体の基本情報

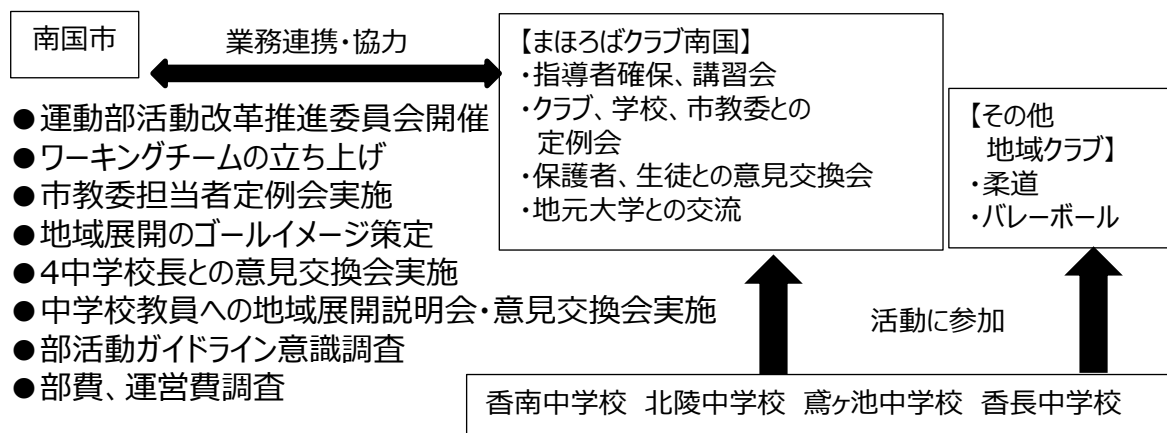
基本情報

面積	125.4km ²
人口	45,540人 (令和7年12月)
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	908人
部活動数 (運動部活動のみ)	31部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

令和7年度も教育委員会学校教育課（指導係長、指導主事、総括コーディネーター、コーディネーター）が中心となり地域展開に取り組んだ。なかでも情報共有をより活発にするために定期的な担当者会を学校教育課長を交えて実施した。そのことで各々の現在地が把握でき、より円滑に取り組みが推進できた。また、令和8年度以降の地域展開を見据え、生涯学習課との会合を持ち、地域展開に向けての来年度予算や社会体育施設について協議した。これにより、学校教育課と生涯学習課の協力体制が深まった。さらに市長部局の理解と協力に向け、副市長を座長とした「ワーキングチーム」を立ち上げた。このように南国市においても、地域展開に向けての体制が整ってきた。一方で、指導者報酬のための財源確保、生徒の移動手段の確保、指導者の確保等、課題も残っている。

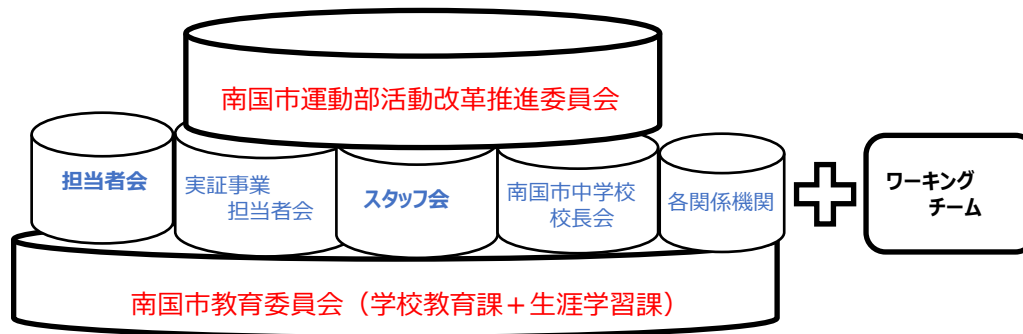
このような動きの中、夏休み期間中に市内4中学校の部活動顧問・副顧問を対象に、オンライン説明会・意見交換会を実施したことで、現場の課題を知るとともに地域展開に向けての理解が進み、兼職兼業を希望する教員を中心に地域クラブの新設に向けての動きが出てきた。そこで新たにサッカー部、女子バスケットボール部を地域クラブ化する目途が立ち、南国市としての今後の地域展開への大幅な道筋が整ってきた。今後は具体的に、活動場所や時間、予算の確保について検討・協議を重ねていく。さらに、令和6年度から引き続き地域クラブとして活動している5クラブは、クラブにより生徒確保等の課題は残るものの、昨年度から積み上げてきた丁寧な運営により、保護者や周囲の関係者の理解が進んできた。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

南国市運動部活動改革推進委員会

◎教育委員会（学校教育課）

- ・部活動改革推進委員会開催
- ・まほろばクラブ南国との連携
- ・学校並びに関係機関との連携
- ・保護者市民への対応
- ・県保健体育課、県・支部中体連、県スポーツ協会との連携

◎教育委員会（生涯学習課）

- ・学校並びに社会体育施設等の管理運営

◎首長部局

- ・財政的措置、ワーキングチーム開催

年間の事業スケジュール

- 4月 部活動総括コーディネーター 同コーディネーター配置
改革推進実証校（香南・北陵）との協議
担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 5月 担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 6月 第1回部活動改革推進委員会 中学校校長会
担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 7月 担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 8月 第1回ワーキングチーム スタッフ会 担当者会
- 9月 第2回ワーキングチーム 担当者会
- 10月 中学校校長会 担当者会
まほろばクラブ南国との協議
第2回部活動改革推進委員会
- 11月 第3回部活動改革推進委員会
第3回ワーキングチーム
南国市小中校長会 担当者会
まほろばクラブ南国との協議
- 12月 担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 1月 第4回ワーキングチーム 中学校校長会
担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 2月 担当者会 まほろばクラブ南国との協議
- 3月 第4回部活動改革推進委員会
改革推進実証校（香南・北陵）との協議
担当者会 まほろばクラブ南国との協議

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	3クラブ	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	2クラブ	
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	10人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
まほろばクラブ南国	総合型地域スポーツクラブ	女子バレーボール	平日 4回 休日 1回	17:30～19:30	1年2名 2年4名 3年3名	通年	2人	2人 (兼務)	500円/月	中体連大会へ
		多種目体験型クラブ	平日 2回 休日 1回	16:00～18:00	1年7名 2年4名	通年	1人	1人 (兼務)	500円/月	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- まほろば南国女子バレーボールクラブ小学6年生対象体験会：7月31日実施
- まほろば南国多種目体験型クラブイベント（カヌー：8月21日実施、ダンス：月に1回程度、ティーボール：通年 等の様々な企画を実施）

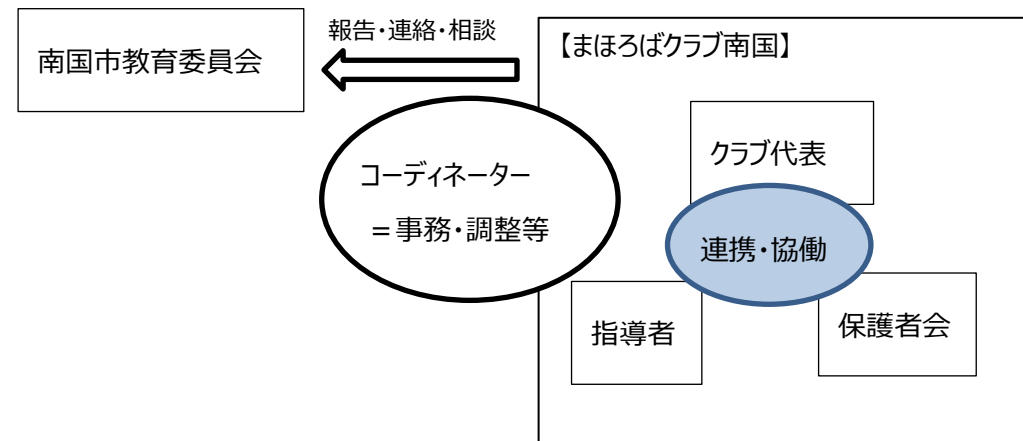
2.実証内容と成果

主な取組例

●まほろばクラブ南国 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール 多種目体験型クラブ
運営団体名	特定非営利活動法人まほろばクラブ南国
期間と日数	バレーボール：5回/週 多種目体験型クラブ：2～3回/週
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、クラブ指導員
活動場所	南国市立香南中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	女子バレーボール、多種目：6,000円/年 男子バレーボール：27,600円/年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- クラブ代表：クラブ全体の統括
- 指導者：現場責任者（専門的指導、生徒指導、練習計画の立案、保護者対応）
- コーディネーター：生徒・クラブ・指導者・学校関係者・保護者の相談、意見調整
大会参加申込、保険対応、入退会等の事務手続き
学校体育館の使用状況を他の部活動と調整
講習会、体験会等の企画、事務手続き

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

昨年度から引き続き地域クラブ活動を実施しているまほろば南国女子バレーボールクラブでは、昨年度の反省を踏まえて、クラブ・指導者・保護者が一体となって生徒を支える仕組みが構築できるよう取組んだ。

- ・ 年度当初、新チーム立ち上げ時に保護者会の実施
(指導者の考えを明確に共有できる時間をあらかじめ確保した)
- ・ 男子やジュニアチームも同時に立ち上がったことから、指導者同士で悩み等を情報交換・共有できる環境づくりを行った。
- ・ 昨年度の経験であらかじめ年度の流れを理解しており、時期が訪れる前に早期対応を実施した。(熱中症対策、防寒対策等)

取組の成果

昨年度と比較し、クラブ全体が円滑に機能した。年度途中で大きな困り事や不安・不満がなく進めることができた。特に保護者からの信頼度が向上し、クラブや指導者への負担が減った。

昨年度のチーム立ち上げ時から規約の作成、ユニフォームの作成、活動時間の整備、用具の整理等を行ってきた。この一連の取組により、今後地域展開を行う競技、団体でどのような準備が必要なのかが明らかになってきた。それは地域展開を望む指導者や部活動との個別の打ち合わせに生かされている。また、教育委員会や運営団体が決めること、現場の指導者に任せた方が良いことが徐々に明確になりつつある。

今後の取組における課題

取組を進める上で、以下の2点は大きな課題となっている。

① クラブ員の確保

生徒が行いたい種目ができる環境を目指して地域展開に取組んでいるが、まほろば南国女子バレーボールクラブでは、全校生徒数の少ない香南中学校と地域にバレーボール文化の少ない北陵中学校が移行した形でスタートしたため、所属生徒の人数が少なくなっている。

② 予算の確保

現在は500円の月会費で活動しているが、指導者への報償費を考えると月会費の値上げを検討する必要がある。保護者の理解協力を得ながら、指導者にも報酬が支払える環境を整備するため、予算の確保が課題となっている。

課題への対応方針

- ① クラブ員を確保し十分な人数で活動できるように、南国市全体で各競技ごとのチーム数の整備が必要だと考えた。香南中学校と北陵中学校で実証を行ったまほろば南国女子バレーボールクラブには、鳶ヶ池中学校も令和9年度よりチームに参入することを決めた。現在の部活動や顧問の意見も聞きながら進めていく。
- ② 庁内ワーキングチームを立ち上げ、南国市としての予算確保への理解を進め、指導者報酬を支払える方法の最善策を模索している。まほろばクラブ南国では、保護者会を開催し、会費の変更の可能性を説明している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 総括コーディネーターとコーディネーター（まほろばクラブへ出向）
- ・運動部活動改革推進委員会の計画と実施
- ・地域展開に向けてのまほろばクラブとの連携協力
 - ※実証期間中のバレーボールクラブの運営（事務、経費、引率、広報等）
- ・地域展開に向けた地域クラブ設立への支援と県中体連への加盟手続き
- ・改革推進実証校の地域展開への保護者会の実施
- ・部活動指導員への活動支援と研修講習の実施
- ・市スポーツ協会主催の指導者講習会開催への協力
- ・指導者への指導者資格取得への援助
- ・地域の指導者との意見交換
- ・市内中学校運動部活動の視察による現状把握と顧問との意見交換・県保健体育課や県中体連との協議や懇談等

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

専門的な指導はできるが事務業務までは負担が持てないという指導者が多いということで、コーディネーターが事務的な役割を担ってきたが、徐々にクラブ・コーディネーター・指導者の役割が明確になってきた。特に大会参加手続きや練習計画については、中体連主催の大会についてはコーディネーターが、その他の練習試合や招待試合は指導者が直接手続きを行うよう分担を行ったことで、円滑に事務作業が進んだ。参加生徒や保護者との連絡に関しては、グループ連絡や紙ベースを複合的に利用しており課題は残る。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

今年度は運営団体を正式に位置付けてはいなかったが、令和8年度以降の取組に向けてまほろばクラブ南国を運営団体とするための体制整備を行った。

<運営団体>

- ・今年度はまほろば南国女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブに加え男子バレーボールクラブの運営をまほろばクラブ南国の運営のもと行った。
- ・研修、講習等が実施される際は、指導者・保護者へ向けて積極的に参加してもらえるよう促した。
- ・総合型地域スポーツクラブ登録団体であり、ガバナンス等が守られており、部活動地域展開タイプの認証制度にも来年度申請する予定である。
- ・<実施主体>
- ・指導者が練習計画を発出する体制に変更し、練習計画の立案から現場の安全管理まで行える体制を整えた。
- ・コーディネーターが定期的な聞き取り、意見交換を実施している。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

昨年度より、事故や怪我が発生した場合は応急処置をするともにクラブに連絡するようにしている。その際、不在者がいて対応が遅れてしまう場合や監督不在時の対応が課題となっていた。そこで、クラブ関係者（理事長、コーディネーター）、指導者（監督、コーチ）、保護者、マネージャーで組織される各クラブごとのグループ連絡網を作成し、緊急対応に加えて、後ほどグループで連絡を行うことを徹底した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

南国市では令和4年度より平日も含めた地域展開に取組んでいる。先を見通して平日休日の完全移行を推進していくことや生涯教育（学校教育と社会教育の両輪）と捉え取組んでいること等を確認して取組を進めている。そのため、平日休日の一貫した指導が行える環境はある。

また、指導者の質を保障するため、今年度も部活動指導員や地域クラブ指導者に対して以下の研修を用意した。

- ・救命講習（教育委員会）
- ・子どもの自死予防（教育委員会）
- ・ペップトーク（まほろばクラブ南国）
- ・部活動地域展開事業 子どもの心と体を守るコーチング（まほろばクラブ南国）
- ・アクティブチャイルドプログラム（スポーツ協会）

今後の取組における課題

指導者研修を充実させる中で、指導者だけではなく関係する保護者や現状の学校部活動の顧問の教員にも参加してもらい、市内全体で子どもたちを見守る環境を作っていく必要がある。これまで、研修会や講習会の参加者は地域クラブ指導者や部活動指導員がメインであったが、ペップトークやコーチング等、実際の現場で必要になることも多い。そのため、受講するのが一部の指導者だけにならないように、関係者に研修会・講習会への参加の周知を図ることが課題である。

課題への対応方針

研修会・講習会の内容、周知の方法については、指導者の確保とともに検討・協議を重ねていく。

取組の成果

まず講習会・研修会を計画する段階で、教育委員会（学校教育課・生涯学習課）、まほろばクラブ南国、南国市スポーツ協会が連携し、幅広い分野について学ぶことができる環境が整っている。

昨年度、指導者の参加率が芳しくなかった点も踏まえて、昨年度に引き続き参加していない、事情により参加できない方はコーディネーターが個別に訪問する等対応を行った。開催時期についても検討したことで、ペップトークに関しては関係者の参加が増え年度当初に指導に関する共通の理解を図ることができた。



コーチング研修



ゲートキーパー養成研修

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

まほろば南国女子バレーボールクラブは今年度も高知工科大学女子バレーボール部との合同練習を行った。また、高知東高校女子バレーボール部との連携も行う等、高校や大学との協力のもと、単発ではあるが充実した環境下で活動を行っている。これを皮切りに、その他の競技種目でも大学との連携を図っていききたいと計画しているところである。

指導者人材バンクの設置はできていないが、既に指導していただいている方に指導者の紹介を依頼したり、クラブ内の繋がりで声をかけたりと今後の地域展開に向けて各競技・種目の指導者発掘を行っている。

指導者研修の内容（例）

研修名	部活動地域展開事業 子どもの心と体を守るコーチング
講師	杉田正明氏
研修内容	子どもの心と体を守るコーチング、そして子どもが自分から動くスポーツ指導とバーンアウトとケガを防ぐ秘訣。 子どもや大人、高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ活動の中に部活動を取組むウェルビーイングの実現、まちづくりの推進に向けて、子どもが自分から動くスポーツ指導バーンアウトとケガを防ぐ秘訣を学び、持続可能で多様なスポーツ環境を整備し、多様な体験機会を確保することを目的とする。

指導者研修受講者の声

実証事業に取組むまほろば南国女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブの指導者が参加した。また、今年度から立ち上がった男子バレーボールクラブの指導者も参加した。さらに、関係するスタッフや保護者の方々の参加もあった。

●参加者の声

参加者①

立場は教員兼指導者です。睡眠負債については新たな知見で学びになりました。睡眠が大切だと分かっているにもかかわらず実際にどのように伝えるのかは難しいためこのようなエビデンスがあると発言に自信が持てます。今後に向けて、常に新しい知識や情報は欲しいので、定期的にこのような講演会があるのはありがたいです。また、リアルに交流、情報交換の場になるのがよいです。

参加者②

オリンピック見ていたので、スライドショーがとても感動しました。身長伸び方についてのところではすごく学びになりました。4月から身長が伸びている子どもたちが多く、記録し、怪我のないように気にしていきたいと思いました。身長、体温チェック、睡眠の時間等についても、とても大切な時期なことも分かったので、子どもたちに聞き取りもしていき今後に役立てたいと思いました。また中学生は、とても体格差があり、個人差があるということもわかったので、バーンアウトしないように、スポーツを続けていけるように、フォローしていきたいと思いました。今後さらに知りたいこととして、選手がやる気になるように声かけしていますが、なかなかやる気スイッチを入れるのが難しいので、どうしたら良いか知りたいです。ポジティブな声かけをしても、無理とかネガティブな落ち込みやすいときにはどうしたら良いか知りたいです。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ① 部活動改革推進委員会の開催
- ② 改革推進実証校（香南・北陵）との協議
- ③ 中学校校長会での協議
- ④ まほろばクラブ南国との協議
- ⑤ 庁内ワーキングチームの立ち上げ
- ⑥ 担当者会・スタッフ会
- ⑦ 保護者・教職員向けの文書配布、広報への掲載

取組の成果

- ① 幅広い立場の委員からの声を集めることができた。
- ② 昨年度に引き続き両校の校長の協力的な体制を構築できたことで、新たな課題が生まれる中でも迅速に対応できた。
- ③ 部活動ガイドラインのアンケート調査の実施、教員からの意見の吸い上げ等、今後の地域展開に向けて必要な取組を行うことができた。
- ④ 常に情報共有を行うことで地域展開の実際の進捗状況を確認できた。来年度以降の運営団体の仕組み作りに関する話し合いも進められた。
- ⑤ 学校教育課内だけでなく、庁内で現状や課題の共有を図れた。
- ⑥ 学校教育課と生涯学習課の連携体制が深まった。
- ⑦ 市民、保護者、教職員に今後の方向性を提示することができた。

今後の取組における課題

現在、指導者は退職した教員、兼職兼業を希望する教員におおむね頼っている状況である。また、部活動指導員には大学院生に入ってもらっている部活動もある。今後、質の高い一般の指導者の確保は大きな課題になると考えられる。そのため、南国市スポーツ協会との連携をさらに深め、指導者の発掘から研修まで一貫して行うことのできる仕組みの構築が必要になる。

大学との連携に関しては、まほろばクラブ南国が昨年度より単発で高知工科大学バレーボール部との合同練習を行っている。大学生との定期的な取組や連携、指導者確保に向けた大学からの支援は検討・協議を進めていくことが課題となる。

課題への対応方針

指導者の確保に関しては、兼職兼業を希望する教員に地域クラブを立ち上げてもらい、そのサブ的なスタッフとして地域の方々や大学生の協力を求める形が考えられる。それと同時に、現在指導していただいている指導者からの紹介等、多様な募集方法を検討している。スポーツ協会との連携に関しても今後深めていき、スポーツ協会で各種競技を行っている地域の方々が指導するモデルを構築することも視野に入れておく必要がある。その点、部活動改革推進委員会のメンバーとして南国市スポーツ協会の会長には意見をいただいている。さらに、8月には三豊市視察に同行し、まさに連携を深めている最中である。今後も引き続き、指導者確保は課題となるが、継続的にアプローチしていきたい。

大学との連携では、高知工科大学の関係者のもとに総括コーディネーターが同い相談する機会を持つことにしている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

高知県西部に位置する四万十市教育委員会（生涯学習課）とは今年度互いの地域展開の進捗状況を情報交換することから繋がりができた。人口や学校数等、南国市と似通った状況であり、抱える課題や問題等共有できたと考える。

また高知工科大学の関係者とは「まほろばクラブ南国」が関係を築いていることから、現在は間接的な関わりではあるが今後は地域展開への具体的な助言や支援をいただきたいと考えている。

さらに、今年度8月末には香川県三豊市教育委員会を視察訪問し先進的な取組を学ぶことができた。



三豊市視察訪問

取組の成果

先進地を視察することで、南国市として必要な取り組みが分かるとともに、課題を共有する関係を築くことができた。なかでも、三豊市教育委員会視察では、「スポーツ振興事業団」の設置、地域展開を放課後改革と捉えた施策を行っていたことは大いに参考となった。また、全市的に地域展開に向けて取組んでいる様子を拝見し、南国市運動部活動改革推進委員会での協議、庁内ワーキングチームでの協議の参考になった。

今後の取組における課題

今後、地域展開を行ったクラブ数が増えることが想定される。その際、会費の管理や連絡方法等、現状ではスタッフ数が足りないという課題がある。その対応方法を考えていく必要がある。

課題への対応方針

指導者や選手、保護者への連絡をアプリで管理している自治体の事例も聞いている。それらの事例、今後新たな課題が出た際に、先進地やこれまでの関わりの中で相談をできるように今後もアンテナを張っておく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

まほろば南国女子バレーボールクラブでは、体験会や高校生、大学生との交流を積極的に実施し、地域展開を行ったクラブとしてのメリットを最大に生かし、地域資源の活用を行っている。年度当初には新入生歓迎会、関係者の交流会を図り、地域クラブとしての組織の盤石化も図っている。



体験会



新入生歓迎会

多種目体験型クラブでは、まほろばクラブ南国に通う小学生や高知大学地域協働学部まほろば実習班の皆さんとの活動も行った。



取組の成果

学校部活動では体験できない取組を行うことで、地域クラブ活動の良さを生徒や保護者が理解し、協力的な体制作りにつながっている。生徒の活動機会創出のために新たな活動を作り出すのではなく、既に活動している部活動との連携を図ることで、運営に過度な負担をかけない体制にしている。

多種目体験型クラブでは、昨年度の実績で様々な体験ができることを知り、新入生が多く加入した。大会出場を目指さないレクリエーション的な活動にも一定の生徒が興味を示していることがうかがえる。

今後の取組における課題

今年度行った内容を継続的に行っていくために、スタッフの体制や連携体制をさらに整備できるかが鍵となる。全ての活動を行うと、人的・予算的に難しいため、南国市内全体で取組、複数の地域クラブが一体となりイベントに参加できるよう周知していくことが考えられる。その際、指導者同士で意見の食い違いや摩擦が起きないように、生徒の機会確保の視点を忘れないことは重要になる。

課題への対応方針

今年度の活動を引き続き行っていく。運営団体・実施主体の役割をさらに明確にし、さらに内容が充実するように日々試行錯誤を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

今年度5つの地域クラブが学校施設（体育館等）で活動した。香南中学校では3クラブ（まほろば南国男子バレーボールクラブ・女子バレーボールクラブ・多目標体験型クラブ）、香長中学校では1クラブ（香長オールスターズ）、県立岡豊高校武道場では1クラブ（岡豊ジュニア柔道クラブ）である。クラブによって活動日数に違いがあるものの、大会出場や遠征を除き平日3日～4日、休日1日と活動したため学校施設としての利用は年間200日を超えることとなった。

取組の成果

各クラブとも学校部活動に準じて利用料金は免除であった。そのため、学校部活動のときと変わらず、体育館を利用することができた。

今後の取組における課題

利用料金は免除であったが、照明や空調を利用した場合や学校以外の社会体育施設を利用した場合有料になる等、運営経費に苦慮したクラブもあった。

また、体育館を利用する際の鍵の管理は課題として新たに上がった。利用する体育館に所属している生徒が学校の放課後の活動の延長で学校の鍵を利用して鍵を開けることがあり、鍵の管理体制に課題があることが分かった。指導者、クラブ関係者のみならず生徒や教員への周知徹底も不可欠となる。

さらに、施設の備品の確認、責任元の確認も今後の地域展開を見据えて必要になってくる。

課題への対応方針

- ① 実証事業を通して、地域クラブ活動の施設利用料金に関する規定を定めた。施設利用料金は減免（無償）とすることにし、ネットや道具の貸出は可能とした。ただし持ち出しは禁止とすることを取り決めた。
- ② 現在、生涯学習課に提出している学校施設の開放の申込書に代表者のみでなく、鍵の管理者を記名することとなった。鍵の管理者を明確にし、受け渡し等のトラブルが起こらないよう対応する。
- ③ 学校施設の貸し出しに関しては、地域クラブへ何時から貸し出すことが可能なのか今後検討を重ねることとしている。現状では利用できる時間に学校ごとで時間が異なるため、4中学校で学校部活動、地域クラブ、社会体育がそれぞれ何時から利用することができるのかについて、来年度以降定めていくこととしている。
- ④ 令和8年度には、現在学校で管理されている備品を全て確認することにした。例を挙げると、バレーボールのネットの傷み具合（経年劣化等）の状況を確認することで、壊れてしまった場合の対応ができるようになると思う。地域クラブ活動が正式に始まる前に、使用する施設の備品リスト、状況を把握しておく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

年度当初は計画していなかったが、現場からの意見や現在の部活動の状況を踏まえて、下記3点を行った。

- ① オンライン説明会・意見交換会
- ② 教職員との意見交換
- ③ アンケート調査

また、南国市では令和4年度より部活動によっては休日に練習試合がある等、休日だけの移行では逆に取組にくいという場合もあるため、平日も含めた地域展開に取組んでいる。先を見通して平日休日の完全移行を推進していくことや生涯教育（学校教育と社会教育の両輪）と捉え取組んでいること等を確認して取組を進めている。今年度からは、令和6年度に置いていた「窓口教員」を置かずに取組んでいる。特別な生徒指導が必要な場合、適宜コーディネーターが学校との連携・情報共有を行っている。

取組の成果

- ① 平日休日に一貫した指導ができることの安心感が分かった。また平日も同時に移行を進めていく上で財源の確保が大きな課題であることが分かった。
- ① 兼職兼業で地域クラブの立ち上げを目指す教職員が現れた。
- ② 部活動はもちろん、地域展開を行った地域クラブにおいて危機管理体制を整備することの重要性が明らかになった。

今後の取組における課題

- ① 平日も同時に地域展開を進めることで、移動手段の確保は大きな課題となっている。市内4校の距離が離れていることもあり、自転車での移動が現実的ではない地域、安全面を考慮した移動手段の確保や移動への保護者の理解協力は必須である。また、サッカー部の地域展開の話し合いが行われた際には、ナイター設備のある学校とそうでない学校があるため、移動時間を確保した上で冬の活動場所を考慮する必要性もあるという意見が上がった。
- ② 兼職兼業を希望する教員は学校での活動と地域クラブでの活動をさび分け、体育館の利用調整、鍵の管理を地域クラブ指導者として行うことが安全かつ平等な運営のために必要になる。また、心身に負荷がかかり、本来の業務に支障をきたすことのないよう留意して管理・監督することが大切になる。
- ③ 地域展開したクラブの危機管理マニュアルを作成する中で緊急時の連絡体制が課題として挙げられる。学校部活動では学校から保護者に連絡することが一般的であったが、地域クラブの場合、指導者が直接またはクラブ代表やコーディネーターが連絡するようになる。指導者が行った場合、緊急時は対応できるが保護者と個別に連絡をつなぐことになり以後のトラブルが心配である。クラブが対応する場合は対応に時間がかかる恐れがある。連絡網の在り方、危機管理体制については今後さらに検討を進めていく必要がある。

課題への対応方針

女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブの実証やその他の競技や学校の地域展開への動きを踏まえて、様々な課題が生じたが、今後もひとつひとつ丁寧に対応していきたい。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

南国市運動部活動改革推進委員会は今年度これまで3回実施し、情報共有や意見交換により地域展開が推進できた。また市内の中学校教員を対象にしたオンライン意見交換会では活発な質問や意見が寄せられ、地域展開に前向きな動きも見られた。この意見交換会を皮切りに関係者との具体的な打ち合わせを開催し、令和8年度には市内4中学校のサッカー部を統一チームとすること、香長中学校女子バスケットボール部、柔道部の地域展開を行うことが決まり、市民や教職員への周知を図った。

コーディネーターは実証事業で連携している総合型地域スポーツクラブ（まほろばクラブ南国）に出向し活動を支え、実証事業の現場の様子を鑑みながら、来年度以降の地域展開のゴールイメージの策定へとつなげた。また8月末には香川県三豊市教育委員会を視察訪問して先進的な取組を学び、運営体制の参考とした。

その他、指導者、保護者等を対象に「ハラスメントやいじめ対応」「救命講習」、「子どもの自死予防」、「ペップトーク」、「求められる指導者像」等の研修・講習会を今年度も実施し、地域展開に関わる人材の質の向上に努めた。

学校教育課が中心となり取組を行う中で、生涯学習課や庁内の連携も深まり、令和8年度以降に向けて、明るい兆しが見える1年になった。しかし、予算面や指導者確保等の課題は残っているため、今後も取組を進めていく。

●成果の評価

ワーキングチームの立ち上げにより、庁内の連携が深まったことが大きな成果である。特に予算面の検討が大きく進んだ。オンライン意見交換会を実施したことで、兼職兼業を希望する教員の存在が明らかになり、いくつかの競技で地域展開の目途が立ったことは大きな成果である。

その他、実証事業を参考に、運営団体と実施主体の仕組み作りに着手し、令和8年度から10年度の大まかな枠組みを設定できたことも成果として挙げられる。

●今後に向けて

予算の確保、指導者の確保等、引き続き細かな課題に対応していくとともに、進んでいくにつれて生まれてくる新たな課題へ丁寧に対応していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

●今後地域クラブへ移行する際に兼職兼業が多数予想されることから、部活動顧問を対象に部活動ガイドライン意識調査を実施した。（設問項目 抜粋）

①できている ②どちらかといえばできている ③どちらかといえばできていない ④できていない
の4項目から選択。

1. 生徒の心身の健康、事故怪我防止を意識し指導している。

①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）

2. 週あたり2日以上（平日は少なくとも1日、土日は少なくとも1日）を設けている。

①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）

3. 1日の活動時間は平日では朝練習を含めて長くとも2時間程度、学校の休業日は3時間程度としている。

①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）

4. 熱中症を予防するための対策を取っている。

①できている（81.8%）②どちらかといえばできている（18.2%）

5. 体罰やハラスメントについて具体的事例から理解できている。

①できている（90.9%）②どちらかといえばできている（9.2%）

南国市部活動ガイドラインは令和6年11月に改訂版を学校長を通じて各運動部活動顧問に周知を図った。来年度からの認定地域クラブ制度の導入に向けてこのガイドラインは今後の指導者には子どもを守るために不可欠なものになる。そこで現在学校部活動での遵守状況を調査し今後に生かすことにしたが結果は5項目について100%を達成できなかった。指導者の危機管理意識の徹底はさらに重要になってくると感じた。

●現状の部活動の部費の調査を行った。

- ・部活動保護者会費（毎月の徴収額）：平均1,666.6円（最大5000円、最小500円）
- ・会費の用途→大会参加費、遠征費、消耗品費、燃料費等

●参加者/関係者の声

●令和6年度より実証を行っているまほろば南国多種目体験型クラブの生徒に活動に関する聞き取りを行い、来年度以降どのような活動を行うのか、関係機関との新たな関わりの機会の創出について模索した。（一部意見を抜粋）

参加者①

小学生と一緒に活動したときは自分たちと違ってとても元気で活発だった。仲良くなれる子もいたしそうではない子もいた。自分たちで企画して楽しめる時間を作れたのもよかった。もっとフレンドリーに接していくことが目標である。

参加者②

ダンスとリズムジャンプの先生が来たときは、リズムに合わせて体を動かすのが難しかった。カヌーは初めて体験して楽しかった。これができるのは多種目の魅力だと思う。これまでにやったことのない競技では、水泳をしたい。夏休みは暑くてあまり活動に参加できなかったから、水泳であれば暑くてもできるし、運動にもなると思った。

参加者③

大学生との活動では、多種目リレーを開発したり風船バレーをやったり、これまでに体験したことのない遊びのような活動ができて楽しかった。最後には色紙もくれて優しい大学生だった。1月で大学生との活動が終わってしまうことは悲しいけど、またどこかで会いたい。

2.実証内容と成果③

参考資料



【運動部活動改革推進委員会】



【ワーキングチーム】



【女子バレーボールクラブ 活動の様子】



【多種目体験型クラブ 活動の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

実証事業開始
学校現場との調整

総合型地域スポーツクラブ
(まほろばクラブ南国) との
協議

●ステークホルダー

- ・ まほろばクラブ南国での活動
- ・ 運動部活動改革推進委員会での協議

●経過

- ・ 令和5年度からの計画を具現化
- ・ 実証校にて女子バレーボール部、女子バスケットボール部を総合型地域スポーツクラブへ移行
- ・ 新たに多種目体験型クラブを創設
- ・ 保護者との意見交換会実施
- ・ 柔道、バレーボールの地域クラブ発足

●実施にあたって生じた課題

- ・ 新たなユニフォームの作成、またユニフォーム費用に関する保護者の不安
- ・ クラブ員不足で活動休止（女子バスケットボール）

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 丁寧な取組と話し合い

令和7年

地域クラブ活動
の体制完成

指導者の確保
利用施設の確定
予算確保

●ステークホルダー

- ・ まほろばクラブ南国での活動
- ・ 運動部活動改革推進委員会での協議
- ・ 市役所庁内のワーキングチーム

●経過

- ・ 施設利用、予算確保、指導者確保についての協議
- ・ 現存する部活動（サッカー、バスケットボール等）に関する地域展開の方向性が決定

●実施にあたって生じた課題

- ・ 各校、各部活動、保護者等にどのように共通理解を図り、理解・協力を得るか
- ・ 地域クラブのクラブ員確保

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 保護者、教職員への文書配布や説明会の実施
- ・ 市の広報による市民への周知
- ・ 教職員との懇談やクラブ員確保への宣伝活動

令和8年

改革実行期間開始
会則改定による施設利用
地域クラブの増設

●ステークホルダー

- ・ まほろばクラブ南国での活動
- ・ 運動部活動改革推進委員会での協議
- ・ 市役所庁内のワーキングチーム

●予定

- ・ 既存の地域クラブの新たな予算による運営
- ・ サッカー、バスケットボール地域クラブ化
- ・ 認定地域クラブ制度に準じた運営と運営団体の仕組み整理

●予想される課題

- ・ 地域クラブの運営経費
- ・ 保護者負担の増額
- ・ 生徒の移動手段の確保
- ・ 良質な指導者の確保

3.今後の方向性

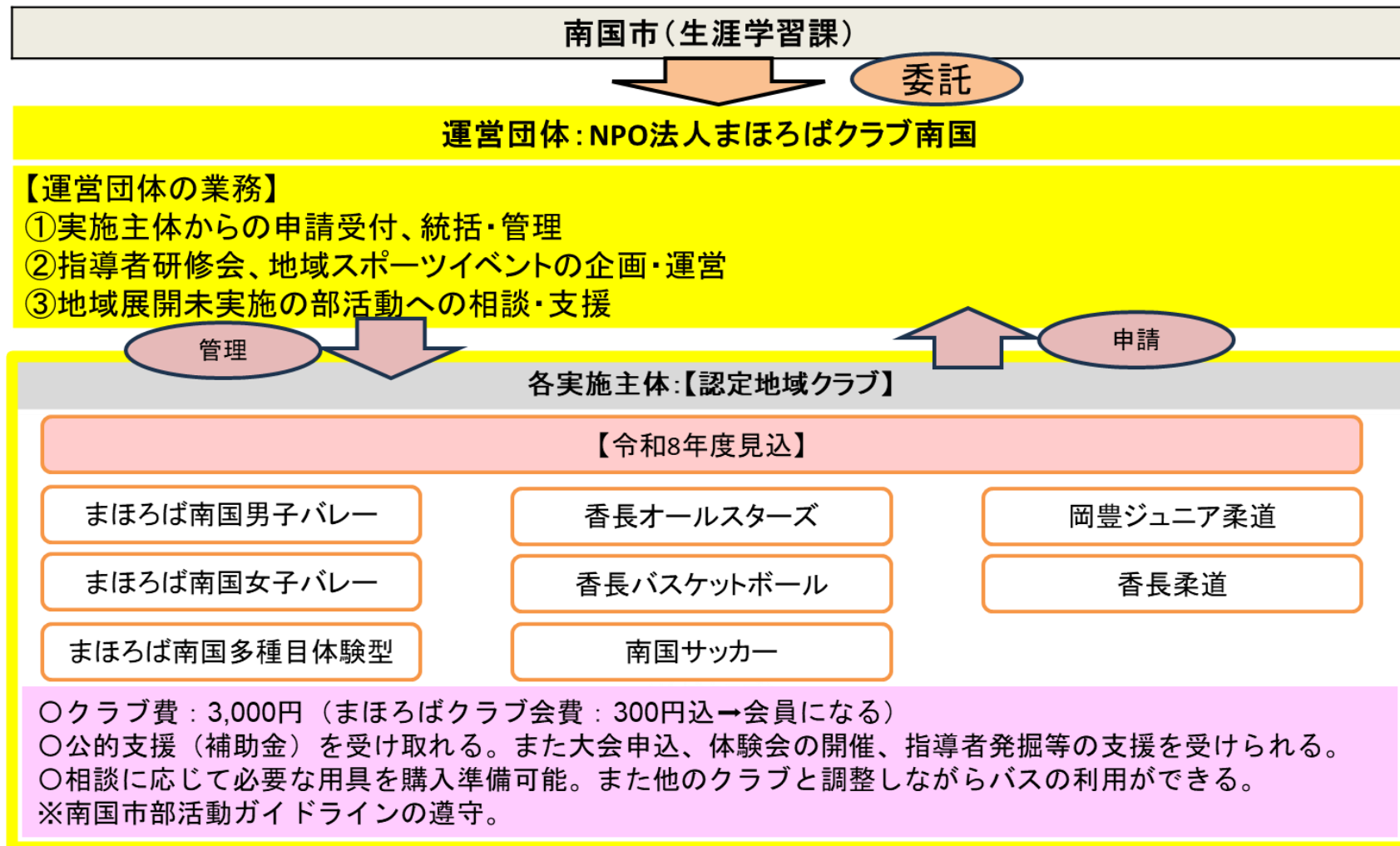
地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南国市部活動地域展開のロードマップ

年度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
		改革推進期間	改革実行期間(前期)国・中間検証			改革実行期間(後期)国		
中学校	香南	女バレ・多種目 移行	女バレ・多種目 完全移行	可能な部活 移行	完全移行 完了 地域クラブ含む	—	—	平日・休日 移行(展開) 完了
		他(検討・移行 準備)	可能な部活 移行					
	北陵	女バレ 移行	女バレ 完全移行	可能な部活 移行	完全移行 完了 地域クラブ含む	—	—	
		他(検討・移行 準備)	可能な部活 移行					
	鳶ヶ池	検討	検討・移行 準備	可能な部活 移行	完全移行 完了 地域クラブ含む	再計画に基づく	再計画に基づく	
	香長	検討	検討・移行 準備	検討・移行 準備	可能な部活 移行	再計画に基づく	再計画に基づく	少なくとも休日移行 (展開)完了
			可能な部活 移行	可能な部活 移行				
	学校教育課		国実証事業	平日休日移行検討フェーズ & 学教 ⇒ 生涯			完全移行までの学校支援	
生涯学習課		改革推進委員会				再計画に基づく		
		国実証事業	平日休日移行検討フェーズ & 学教 ⇒ 生涯			社会体育事業としてのかかわり		
特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		国実証事業	連携協力団体としての位置づけ			地域展開の地域の中心的役割		
		男女バレー・多種目	他種目の受け皿への協議					
今後の動き		★庁内ワーキング チーム・専門家会議 立上げ ○学校及び保護者 にゴール提示	○各校種目別移行検討、受け皿の用意 財源確保の実現化、施設設備の使用料 等についての明確化、指導者確保(報償 含む)体制の確立 ○地域クラブの設置		○前期に関する検 証と再計画 ○地域クラブの支援	地域展開を総合型地域スポーツ クラブ & 各地域クラブが担う 体制の確立		地域スポーツクラブ の自立

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県土佐清水市

自治体名：高知県土佐清水市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0880-87-9133

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	266.5km ²
人口	11,184人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	179人
部活動数 (運動部活動のみ)	7部活
地域クラブ活動数	2クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市では、令和4年度に2部活動を地域移行、令和5年度は地域移行が3部活動となり、また地域連携として2部活動を実施してきた。令和6年度は、地域移行が2部活動、地域連携は3部活動となった。令和7年度は地域移行は継続し、地域連携は2部活で活動している。

事業を実施するにあたり関係機関での意見交換の場として、令和4年度以降、検討・運営会議を年3回開催している。この検討・運営会議では、中学校・市教育委員会・地域スポーツクラブ・部活動指導者・スポーツ推進委員等を委員として、課題を整理し今後の部活動の方向性について協議している。

課題としては、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、地域クラブでの指導者資格の問題、部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題も挙げられた。

高校との連携においては、地域クラブ出身の生徒が令和6年度より高校に進学し、硬式テニス部を発足させた。現在では、中学生と高校生と一緒に練習を行う等、連携した取り組みができています。

子ども達が幼い頃から続けてきたスポーツを中学校・高校に進学しても継続ができるよう、その可能性を最大限に広げることができる持続可能な取組を、本市として今後も施していかなければならない。

清水高校 テニス部 活躍しています !!

10月13日に春野総合運動公園で行われた、第63回スポーツ祭典高知テニス大会シングルの部(第25回全国テニス選手権大会の県予選)に清水高校テニス部が出場しました。

一般女子上級の部で新谷心彩さん(清水高校2年生)が優勝!
一般女子中級の部で山本実穂さん(清水高校1年生)が準優勝!



新谷 心彩 さん



山本 実穂 さん

上級の部で優勝した新谷さんは12月20日(土)から千葉県で行われる全国大会に出場します。

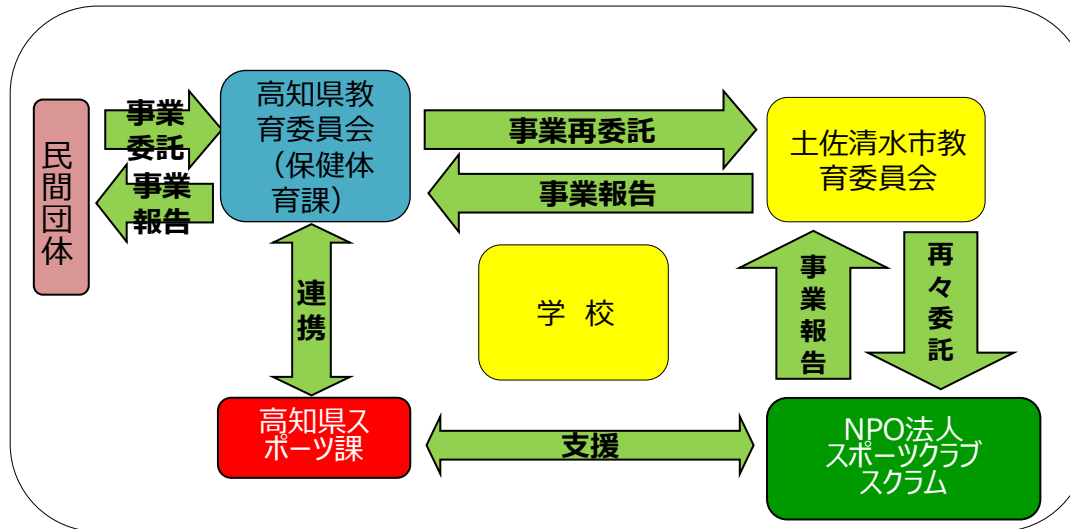
応援よろしくお願いします!

出典：土佐清水市広報12月号

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎高知県教育委員会事務局（保健体育課）

委託先

◎土佐清水市教育委員会（生涯学習課）

再委託先

◎NPOスポーツクラブスクラム

部活動コーディネーター

年間の事業スケジュール

令和7年 4月 ・部活動地域連携・地域移行開始

6月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催①

9月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催②

10月 ・国の実証事業 中間検査

令和8年 1月 ・地域連携・地域移行を検討する協議会の開催③

・部活動地域連携・地域移行終了

・成果報告書 提出

2月 ・国の実証事業 決算報告

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	2クラブ	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
清水中学校	NPO法人 スポーツ クラブスクラム	バドミントン	月4回/ 週1回（等）	16:30～ 18:30	1年生 1名 2年生 1名 3年生 3名	令和7年5月 から令和8年 1月	1人	3人	月会費 500 円 (6,000 円)	中体連： 地域クラブ
FSS	NPO法人 スポーツ クラブスクラム	硬式テニス	月4回/ 週1回（等）	17:30～ 19:30	1年生 4名	令和7年5月 から令和8年 1月	1人	1人	月会費0円 年会費 10,000円 (等)	中体連： 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 県補助金の子どものスポーツ環境整備事業を活用し、幼児から高校生を対象に硬式テニスや卓球の体験教室を実施した。また、他市町村と陸上競技教室を開催した。

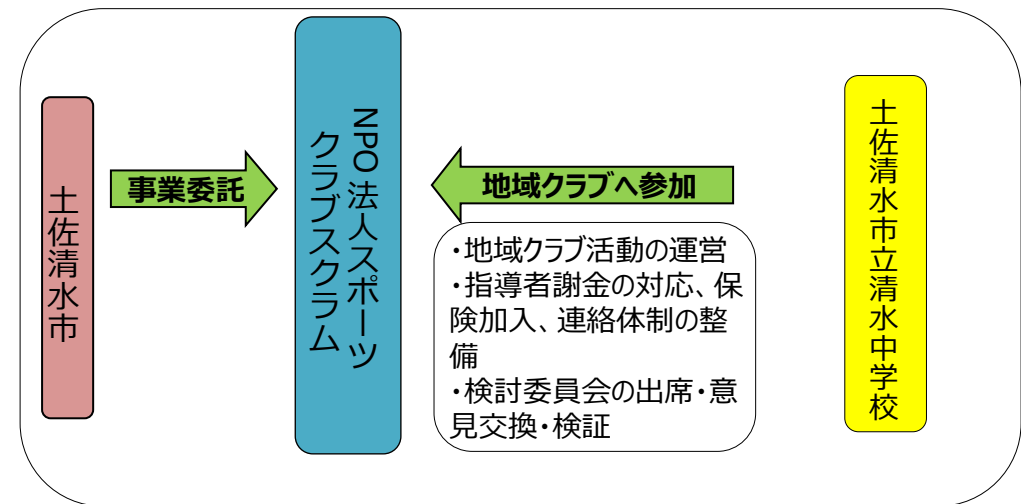
2.実証内容と成果

主な取組例

●NPO法人スポーツクラブスクラム 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン、硬式テニス
運営団体名	NPO法人スポーツクラブスクラム
期間と日数	バドミントン：5月1日～翌年1月31日 月4回程度 硬式テニス：5月1日～翌年1月31日 月4回程度
指導者の主な属性	クラブ指導者
活動場所	市民体育館・総合公園テニスコート他
主な移動手段	徒歩・自転車等
1人あたりの参加会費等 (年額)	硬式テニス：10,000円 バドミントン：6,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

NPO法人スポーツクラブ スクラム

- 事務局長 1名
役割：クラブ運営の統括を行う
- スクラム職員 2名
役割：地域で行われるスポーツイベントや、健康教室の企画・運営を行う
- コーディネーター 1名
役割：主に地域クラブ活動と教育委員会や役場との調整を行う
- クラブ指導者 2名
役割：地域クラブの生徒への指導

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 地域部活動コーディネーターを中心に、運動部活動の地域移行後の体制整備、地域連携・地域移行に向けての協議を実施する。検討・運営会議を年3回実施し現状と課題の共有を図る。

取組の成果

- ・ 活動指導員、中学校、スポーツ推進委員・スポーツ少年団代表者、市教育委員会、県教育委員会、NPO法人スポーツクラブスクラム等、部活動に係る関係者が集まり、現状課題を出し合いながら解決方向に向けて協議を行った。
- ・ 国制度の方向性やそれに対する予算状況について情報共有を行った。

今後の取組における課題

課題としては、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、全国中学校体育大会における指導者資格の問題、部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題がある。

課題への対応方針

中学校で継続してきた部活動を高校でも継続ができるよう、今後においても高校と連携した活動を検討していく必要がある。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・ 地域部活動コーディネーターを中心に、運動部活動の地域移行後の体制整備、地域連携・地域移行に向けての協議を実施した。検討・運営会議を年3回実施し現状と課題の共有を行った。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- ・ 地域クラブ活動の指導者や参加者との連絡・調整
毎月定期的に練習を見学し、大会日程や現状の課題点について情報共有を行った。
- ・ 教育委員会や学校等関係機関との協議を開催した。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- ・ 練習場所である施設の定期点検、道具の点検等を行い安全性確保に取り組んだ。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・ 活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応や、事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との連携がスムーズにとれるよう連絡体制を整備する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

県や市主催の研修会をオンデマンド配信等を活用して受講する。地理的な問題もあり、研修参加において移動時間がかかる等受講者に負担がかかる場合は、オンデマンド配信を積極的に活用する等、指導者が受講しやすい環境整備に取組む。

取組の成果

研修内容としては、スポーツ指導において非常に参考になり有意義であった。

今後の取組における課題

開催日には、大会等の日程が重なり現地での参加ができなかったため、後日オンライン受講で対応した。

課題への対応方針

県中央部からも地理的に離れていることから、ICT等の活用も踏まえ、研修参加方法について、検討したい。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

部活動指導員が、県主催である令和7年度運動部活動指導員研修会のオンデマンド配信を受講した。

部活動指導員が指導の在り方について、日々課題に感じている事を解消できるような研修を、市としても、関係機関と協力をしながら実施に向けて取組んでいきたい。

指導者研修の内容

研修名	「選手の主体性を育むメンタルトレーニング」
講師	大阪体育大学教授
研修内容	- 開催日：令和7年10月5日 - 開催回数：1回 - 参加人数：3人 - 部活動指導員に求められる資質能力 - 主体性を育む3条件とその活用法 - 明日から使えるメンタルトレーニング

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①

選手をほめるから認めることにより自律性が生まれる。やる気を起こさせる大切さを学んだ。

参加者②

明日の指導にすぐに役立つ具体的な講義内容であり大変勉強になった。また、これまでの自分の指導を振り返る機会となった。

参加者③

暴力・ハラスメント事案通報状況で相談件数が毎年増加していることに驚いた。選手をほめるときのタイミング、具体的にほめることが大事だと学んだ。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・地域部活動コーディネーターが中心となり、中体連の手続き等の対応を実施した。
- ・学校教育係と連携し、大会等の市のマイクロバス利用について円滑に進めた。

取組の成果

- ・地域部活動コーディネーターと連携し、地域移行・地域連携部活動の情報共有ができた。
- ・市外の大会は、市のマイクロバスを利用し生徒を送迎することで、保護者の負担軽減につながった。

◆バス等の運行実績

・日数 2日 ・利用者数 20人 ・運行経路 高知市

◆バス等の運航経費・収入

・人件費 運転手賃金 時給2,100円 （学校教育係 予算対応）

今後の取組における課題

運転手の雇用が必要となるため、人材確保が課題である。また、大会参加を増やすために、地域クラブごとに大会送迎バスの利用可能回数の増加も求められており、予算化が必要である。

課題への対応方針

今後においても、検討運営委員会等で課題を共有し、情報交換を行うことで、人材確保・予算化に向けて取組む。

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

近隣市町村との連携実施

幡多地区の6市町村が集まる「広域スポーツハブ促進委員会」（令和7年度3回実施）にて、近隣市町村の部活動における取組状況について情報共有を図り、連携できる内容について協議した。

また、県の会議へ委員として参加し、他地域の取組状況を踏まえ、課題や成果を共有した。

取組の成果

地理的な特徴から、他の市町村との連携には移動や費用等の課題があるため、今後も県や近隣市町村との連携を継続して図っていく

今後の取組における課題

本市の地域クラブに他市町村から参加している生徒もいることから、在籍校との中体連登録手続き等で連携を図った。

また、県教育委員会から検討会へ参加してもらう等、県とも協力しながら取組を行った。

土佐清水市には1中学校しかなく、隣の中学校まで自動車です1時間程度かかるため、今後は連携の在り方について検討が必要である。

課題への対応方針

今後においても近隣市町村、県主催の情報交換会へ参加し、事例を参考にしながら課題解決に向けて取組む。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

地域移行部活動の終了後、練習場所（社会体育施設）からのスクールバス送迎を実施した。

取組の成果

生徒の安全面を考慮し実施できたことで、保護者の安心感にも繋がった。
地域移行開始時に実施したアンケートより、保護者からの子どもの送迎について、「スクールバスを活用し、子どもの安全面を考慮してほしい。」との意見が複数あり、教育委員会内で協議した結果、帰りの送迎を令和5年4月より実施している。

今後の取組における課題

学校から練習場所までの送迎についても今後の検討課題である。

課題への対応方針

今後においても、関係者間で課題を共有し、情報交換を行うことで、送迎便の増加に向けて取組む。

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

自治体負担分として生徒と指導者の保険料を負担した。
また、利用施設の減免を行った。

取組の成果

部活動において生徒と指導者の補償と安全を考慮し、スポーツ安全保険の加入料を自治体負担とした。
保険料 生徒11名、指導者9名
他市町村からの参加生徒についての保険料も対象とした。

今後の取組における課題

令和13年度までの休日部活動の完全移行を進めていく中で、どこまでを受益者負担とするのか、今後の国・県・市の予算状況を含め整理が必要である。

課題への対応方針

生徒と指導者が安心安全な部活動ができるよう市としてバックアップしていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

総括・成果の評価・今後に向けて

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

地域連携部活動（卓球部、サッカー部）についても、地域展開に向けて引き続き取組を行う。

取組の成果

各部活動において、学校と地域の指導者が連携、協力できたため、地域連携（部活動指導員）として活動することができた。

今後は指導者の複数体制の構築や後継者の育成を目指す。

今後の取組における課題

地域展開に向けて取組む中で、地域クラブとして大会出場の際に指導者の資格問題のほか、指導者の後継者・人材確保、予算確保が課題である。

課題への対応方針

部活動の指導者に、検討会の委員となってもらい、現状や地域展開に向けた課題について継続して協議する。

各指導者とも、学校、総合型地域スポーツクラブ、市教育委員会と連携を図り活動を行う。

●総括

本市では、令和4年度に2部活動を地域移行、令和5年度は地域移行が3部活動となり、また地域連携として2部活動を実施してきた。令和6年度は、地域移行が2部活動、地域連携は3部活動、令和7年度は地域移行は継続し、地域連携は2部活動となった。事業を実施するにあたり関係機関での意見交換の場として開催している検討・運営会議では、指導者の後継者不足の問題、予算上の問題、地域クラブでの指導者資格の問題、部活動加入者の減少による部活動自体の存続の問題等、いくつかの課題点が挙げられている。

地域展開・地域連携の目的として、教員の働き方改革であるとともに、子ども達が幼い頃から続けてきたスポーツを中学校・高校に進学しても継続ができるよう、その可能性を最大限に広げることができる持続可能な取組を、本市として今後も実施していかなければならない。

そのためにも、県・市・教育機関・スポーツクラブ等の関係機関と協議し課題解決に向けて取組んでいかなければならない。

●成果の評価

令和7年度より高校が高台移転し中学校と隣接されたことから、部活動においてもより連携した取組が実施できている。地元で継続したスポーツ活動ができるよう、今後においても関係機関で協議を重ね、検討していかなければならない。部活動加入者の減少という点では、幼い頃からスポーツに触れる機会の提供を今後も地域スポーツクラブと連携して取り組み、将来的な競技人口増加をめざすとともに、スポーツ強化の地域として、本市への転入者増加となるような人口減少対策にも結び付けていきたい。

●今後に向けて

令和13年度までの改革実行期間において、人材確保・財源等課題解決に向けて継続して取り組んでいかなければならない。人材確保の面では、幼い頃からのスポーツ環境を整え中学校、高校へ繋げていくことで、将来その生徒が地元で指導者として活動できる後継者となる等、人材不足面の問題解決への可能性も広がる。財源においては、受益者負担・公的負担のバランスを重視しながら、今後においても部活動の主役である子ども達の活動を支えていく必要がある。

2.実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

部活動改革に関するアンケート調査結果（概要）

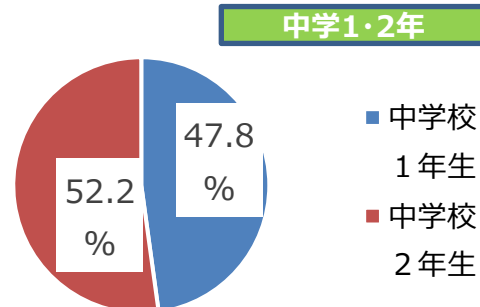
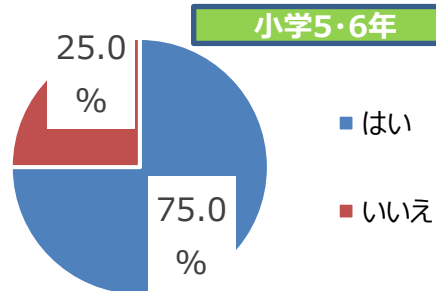
【目 的】 令和4年度県内アンケート結果と比較し、変動を把握する。
令和8年度からの国の方向性を踏まえ、今後の取組を検討する上で
の基礎データとして活用する。

【調査期間】 令和7年7月1日～令和7年7月31日

- 【対 象】 ① 小5・6児童/中1・2生徒
② 小5・6保護者/中1・2保護者
③ 中学校教員

児童のアンケート結果

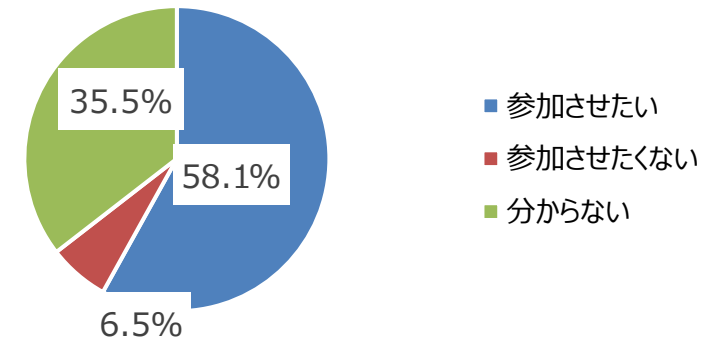
現在、学校の授業以外でスポーツ活動や文化芸術活動を行っていますか



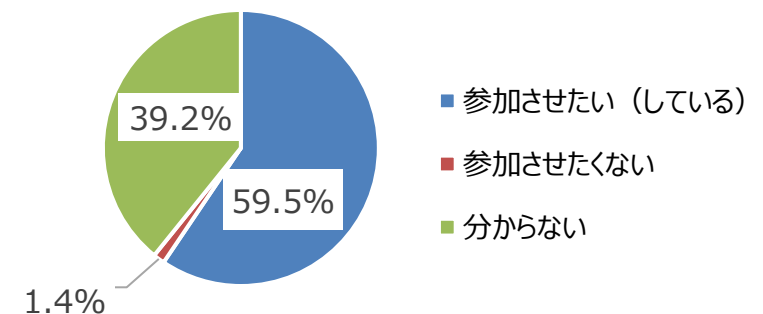
保護者のアンケート結果

現在、国は部活動の地域展開（地域移行）を進めています。これから中学校の部活動が、地域クラブ等での活動になれば、お子様を参加させたいですか

小学5.6年保護者



中学1・2年保護者

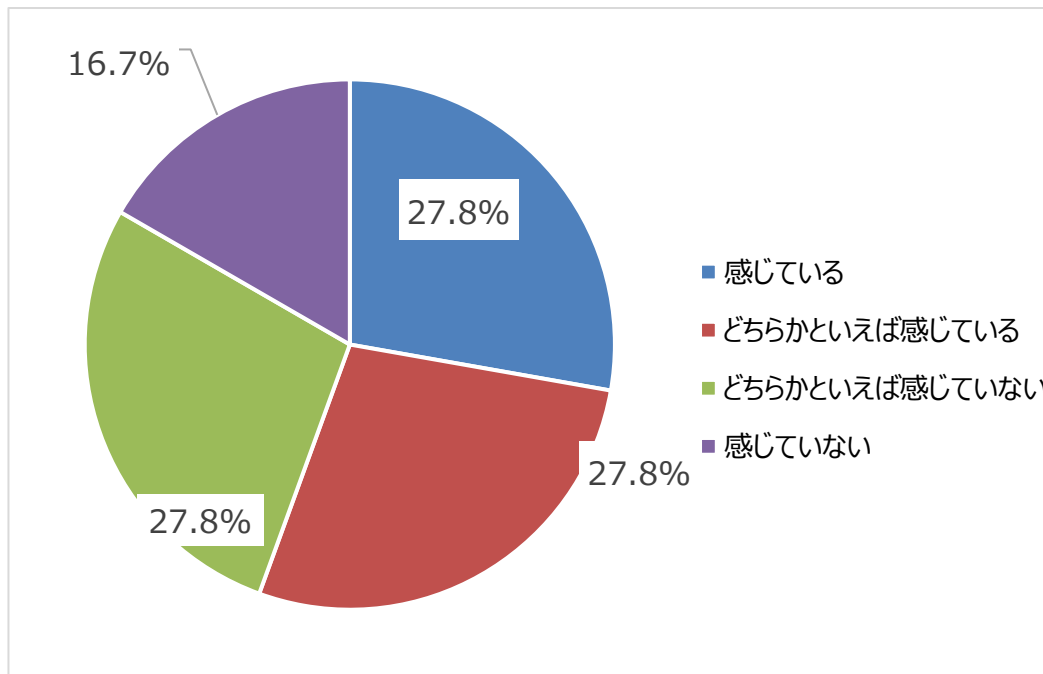


2.実証内容と成果

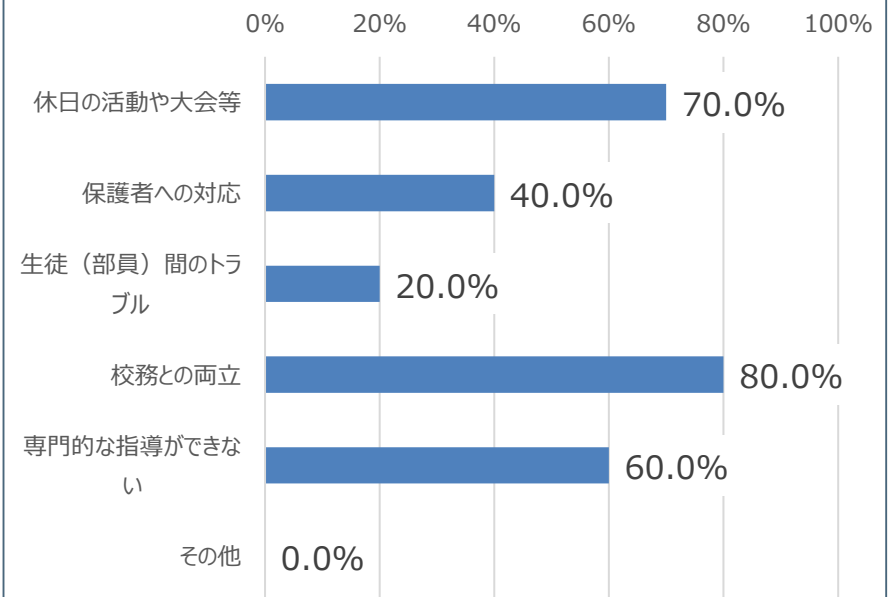
アンケート結果・参加者/関係者の声

教員のアンケート結果

部活動の指導や運営を負担に感じていますか



【感じている】 【どちらかといえば感じている】 と回答した方
部活動顧問（副顧問）として、どのようなことに負担を感じていますか
（※複数選択可）

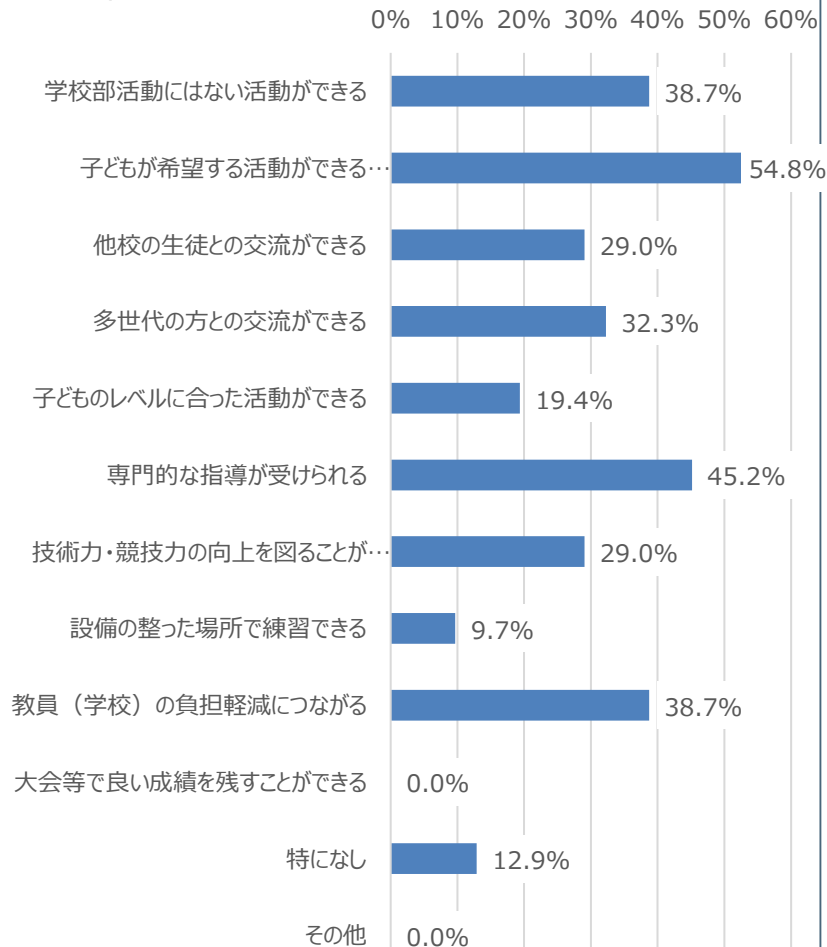


2.実証内容と成果

アンケート結果・参加者/関係者の声

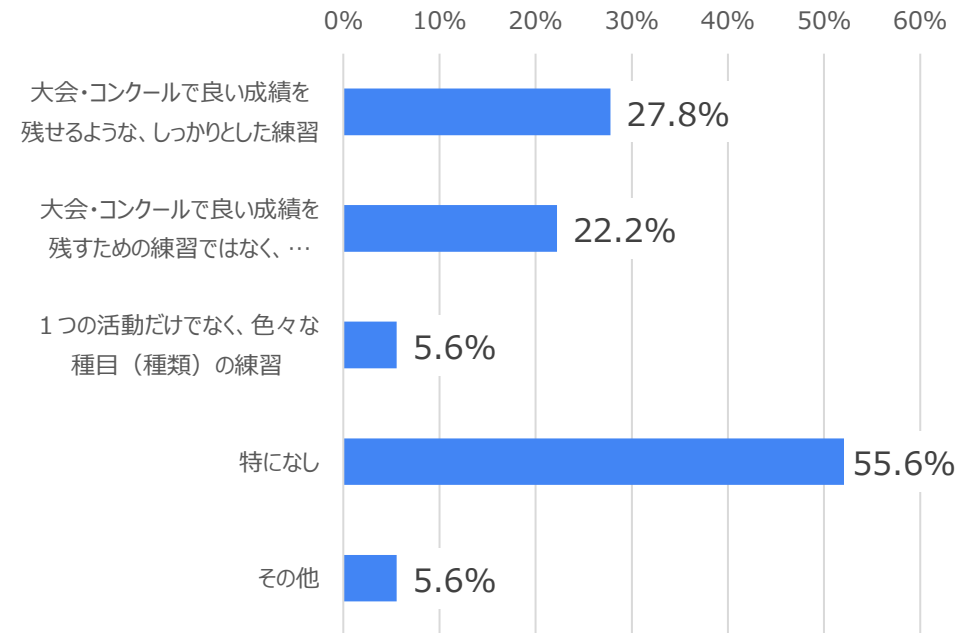
●小5・6年保護者

地域クラブ等での活動になることで期待することは何ですか
(※複数選択可)



●中学1・2年生

地域クラブ等の指導者には、どのような練習をしてもらいたいですか
(※複数選択可)



2.実証内容と成果

参考資料



【バドミントン①】



【バドミントン②】



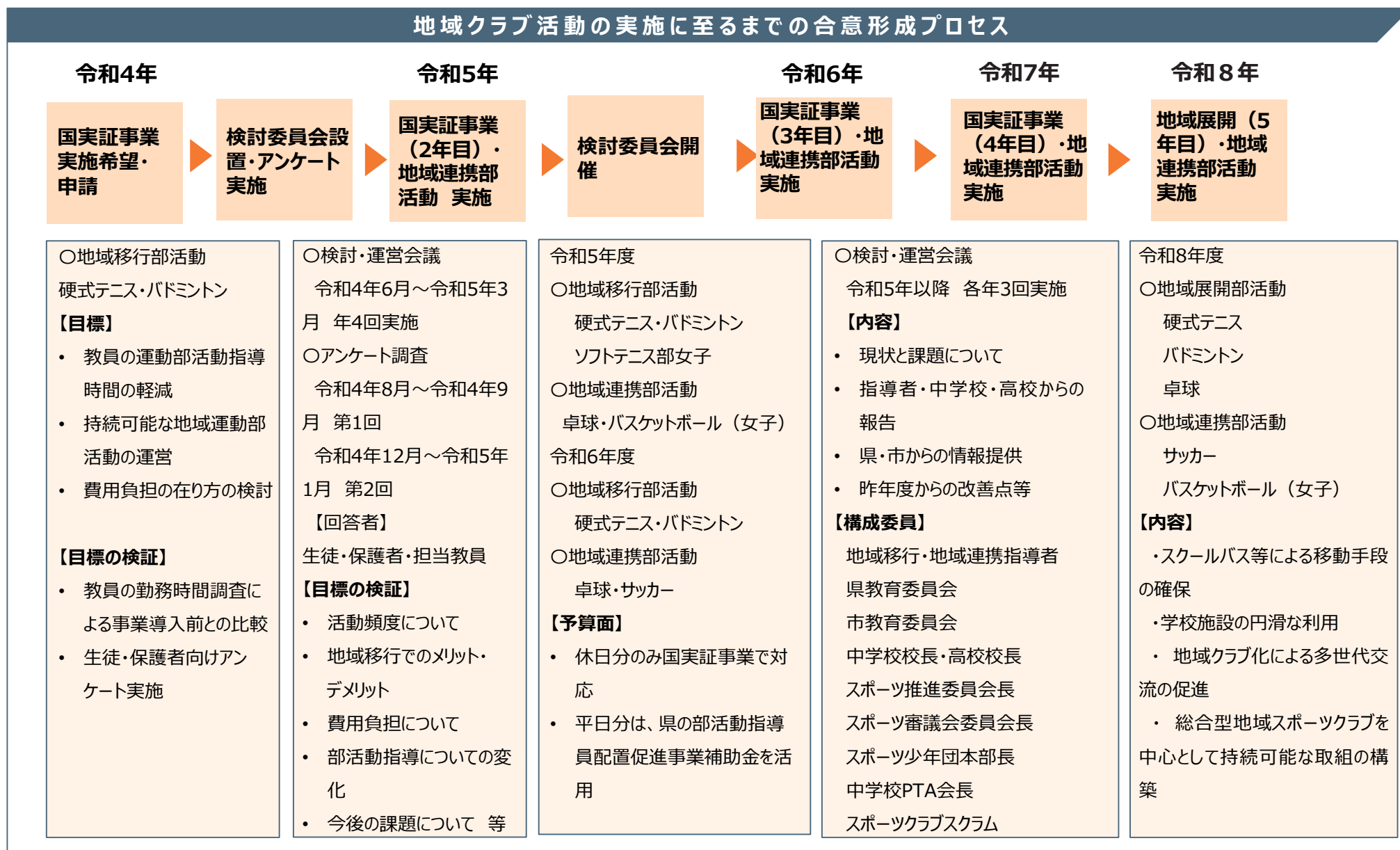
【硬式テニス①】



【硬式テニス②】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ					
	2022年度 (令和4年)	2023年度 (令和5年)	2024年度 (令和6年)	2025年度 (令和7年)	2026年度(令和8年)～ 2031年度(令和13年) ※ 改革実行期間
NPO法人スポーツクラブス クラム	○地域移行部活動 (硬式テニス・バ ドミントン)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミ ントン・ソフトテニス女 子)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミント ン)	○地域移行部活動 (硬式テニス・バドミント ン)	○地域展開部活動(令和8年) (硬式テニス・バドミントン・卓球) ⇒令和13年までに休日部活動完 全移行
スポーツハブ事業：子どものスポーツ環境整備推進事業等県補助金を活用した、子どもたちが幼いころからスポーツに触れ合える環境づくりを通して、将来の部活動の部員減少を防ぐことに繋げる					
モデル事業					
地域移行・地域連携部活動の推進					地域展開の推進
土佐清水市 教育委員会 (生涯学習 課)	○検討・運営委員 会の設置 ○生徒・保護者・ 教員へのアンケート 調査実施	○地域連携部活動 (卓球・バスケ女子)	○地域連携部活動 (卓球・サッカー・ソフトテ ニス) ○その他の部活動の地域連 携・地域移行についても協 議していく	○地域連携部活動 (卓球・サッカー) ○その他の部活動の地域連 携・地域移行についても 協議していく	○地域連携部活動(令和8年) (サッカー) ○その他の部活動の地域連携・地 域展開についても協議していく
高知県立 清水高等学校		○高校の校舎移転に 合わせて清水中と定 期的な意見交流	○検討・連携部会へ参加 ○硬式テニス部創設 (中学校地域クラブと連 携、合同練習)	○令和7年4月校舎移転 (中学校と隣接) ○中高連携の部活動を協 議していく ○硬式テニス部(中学生 と連携)	○中高連携の部活動の推進をする

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県四万十市

自治体名：高知県四万十市

担当課名：四万十市教育委員会生涯学習課

電話番号：0880-34-0750

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	632.29km ²
人口	30,935人
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	821人
部活動数 (運動部活動のみ)	32部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本市の現状としては、生徒数、教員数の減少により、専門として指導できる教員がいない、生徒がやりたい部活動が学校に無い、団体競技においては自校単独でチームが組めない等の現状となっている。「地域の子供たちは、学校を含め地域で育てる。」という意識の下、本市の実情に応じ、子供たちが地域でスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保するとともに、学校の働き方改革を推進し、持続可能で多様なスポーツ・文化環境の一体的な環境令和5年度に検討委員会（中学校長・PTA会長・スポーツ協会・スポーツ少年団協議会、文化協会の代表者で構成）を立ち上げ、地域連携・地域移行の効果や課題、国・県の動向について共有するとともに、今後の進め方を協議している。地域移行が可能な種目から段階的に進めていく等、できることから少しずつ取組んでいく。

●四万十市における中学校部活動地域移行検討委員会

【令和5年度：2回開催】本市の地域連携・地域移行推進計画を策定、令和6年度にスタートする地域移行に向けた国実証事業（地域クラブS×CREW（ソフトテニス）の運営）、拠点校方式の導入や部活動指導員の配置等今後の部活動地域移行の進め方を協議した。

【令和6年度：2回開催】競技別方向性（拠点校方式の導入、部活動指導員の配置）、地域コーディネーターの導入検討や新たな地域クラブの創設に向けた動き等を協議した。

【令和7年度：2回開催予定】令和8年度からの地域展開に向け意見聴取を行った。国・県が示すガイドライン等を受けて2回目の検討委員会を実施し本市の推進計画策定を行う予定としている。

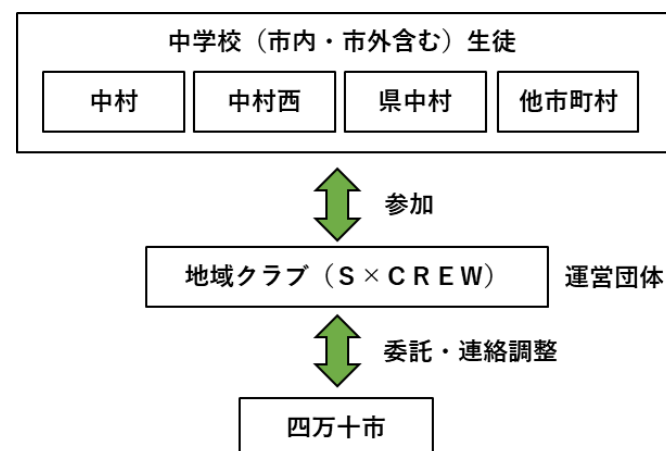
2.実証内容と成果

主な取組例

●S×CREW 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	S×CREW
期間と日数	令和7年4月1日～令和8年3月31日 月20回程度
指導者の主な属性	クラブ指導者（40代男性3名と女性1名、 自営業及び民間企業、公務員）
活動場所	安並運動公園テニスコート
主な移動手段	自家用車等
1人あたりの参加会費等 （年額）	24,000円（うち保護者会費6,000円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

①統括責任者1名

役割：男女全体の指導及び運営に関する確認及び最終決定を行う

②主任指導者2名

役割：男女各1名ずつ監督として指導及び大会引率等を行う

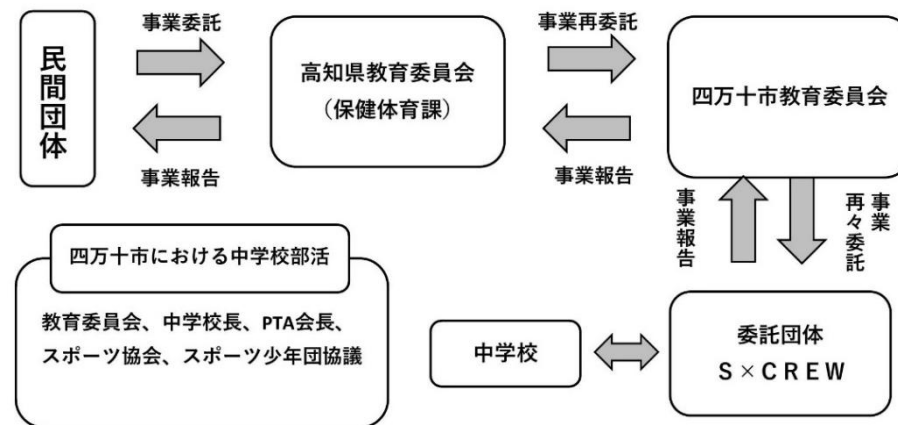
③運営補助者1名

役割：部費及び保護者会費の管理、補助金に関する書類全般、予定計画、施設借用申請、大会申請、中体連関係書類全般、保護者や指導者への連絡、保護者及び生徒からの相談窓口を行う。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（生涯学習課・学校教育課）

- ・S（エス）×CREW（クルー）（委託団体）への事業委託、学校との連絡調整

◎首長部局

- ・なし

◎コーディネーター

- ・実証事業終了後（2月）に配置

年間の事業スケジュール

令和7年4月

- ・委託団体、中学校における実施準備

令和7年5月～令和8年1月

- ・国の実証事業 S×CREW（ソフトテニス）

令和7年9月

- ・四万十市 地域連携・地域移行検討委員会①

令和7年11月

- ・国の実証事業 中間検査

令和7年12月

- ・第4回 高知県地域連携・地域移行検討会議

令和8年1月

- ・国の実証事業成果報告書提出

令和8年2月

- ・国の実証事業 決算報告
- ・第5回 高知県地域連携・地域移行検討会議

令和8年2～3月

- ・四万十市 地域連携・地域移行検討委員会②

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1クラブ（2部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	4人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
S×CREW	地域クラブ	ソフトテニス	・平日 3回 ・休日 2回	平日17:00 ～19:00 休日13:00 ～17:00	3年 9人 2年 8人 1年 11人	令和7年4月1 日～令和8年 3月31日	4人	4人 (内、兼務0 人)	24,000円 /年額（内 保護者会 費6,000 円）	中体連： 地域クラブ その他： 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

本市を含む幡多地域子ども達が様々なスポーツを通じて自らの適性を見つけ、一人ひとりの興味、関心に応じてスポーツを続けられる仕組みを構築することを目的として、高知県及び幡多地域6市町村が連携したスポーツ体験イベント「はたキッズ」を開催した。

本市で既に活動のある競技及び運動能力を向上させるプログラムについて、初心者向けに楽しさやおもしろさを実感できる内容で実施

対象：小学4年生～6年生

- (1) 知的プログラム 運動・リハビリ講座1回
- (2) 体験プログラム 野球1回・ソフトテニス1回

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 総括コーディネーター配置
- 指導者確保のため関係機関との連携

取組の成果

今後、地域展開を進めるにあたり、令和8年度以降の国・県の動向や種目ごとに課題もあり、コーディネーターの配置ができなかった。

(実証事業終了後の令和8年2月に配置)

今後の取組における課題

地域展開を種目ごとに具体的に進めていくにはコーディネーターの配置が必要となっている。

課題への対応方針

令和8年2月よりコーディネーターを配置し、地域展開に向けて学校部活動や地域クラブ活動の状況把握、進めるにあたっての課題等の情報収集を行う。

コーディネーターの具体的な動きの実績

今後の地域展開を見据え、生徒・保護者、学校、外部の指導者等との情報共有や連絡調整を行うコーディネーターを配置する必要性について、市の検討委員会などを含め関係者と協議を重ねた。

(実証事業終了後の令和8年2月に配置)

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

市の検討委員会にて関係委員からいただいた、地域クラブ活動における安全確保の体制確立や、指導者に対する研修の充実などのご意見に基づき、検討を推進。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- ・ 活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含め管理責任の主体について学校、地域クラブ、教育委員会で協議
- ・ 事故等が発生した場合における保護者や関係機関等との適切な連絡調整等についても同様

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

高知県や高知県スポーツ協会、加盟団体の研修会等を活用し、計画的に受講する。また、幡多地域の地理的条件もあり、研修参加において移動時間等の負担が大きいことから、オンライン等の受講を積極的に活用する等、指導者が受講しやすい環境整備に取組んでいく。

今後の取組における課題

県中央部への研修では、オンライン等のICTの活用が必要である。

課題への対応方針

指導者への講習会等の実施については、今後も関係機関と調整しながら検討していく。

取組の成果

研修の機会について、指導者への周知を行った。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

県主催の運動部活動指導員研修会に地域クラブ指導者への参加を促した。
また、部活動指導員が将来的に地域クラブ指導者となることを想定し、受講していただいた。

令和7年度運動部活動指導員研修会 開催要項

- 趣 旨 公立中学校、県立中学校・高等学校で指導にあたる運動部活動指導員の指導力の向上や運動部活動の活性化及び充実を図ることを目的とする。
- 主 催 高知県教育委員会
- 期 日 令和7年10月5日（日）
- 会 場 高知県立青少年センター 青少年ホール
〈高知県香南市野市町西野 303 番地 1 TEL：0887-56-0821〉
- 対 象 令和7年度において、運動部活動指導員として市町村立学校及び県立学校に配置されている指導者
- 日 程

13:30	14:00	14:10	15:40	15:50	16:00
受付	開会	講演	質疑応答	閉会	※振り取りアンケート記入
		『選手の主体性を育むメンタルトレーニング』 【講師：大阪体育大学教授】			
- 旅 費

○市町村立学校で任用されている方は、該当する教育委員会の旅費規程に従って事務処理を行ってください。

○県立学校で任用されている方は、配当外旅費での対応とします。以下の内容で事務処理をお願いします。なお、本研修は指定研修のため、移動時間を含め勤務時間が7時間を超える場合（公署限度）は、やむを得ない理由としますので事務処理を行う際、十分に注意してください。

・用 務 名：令和7年度運動部活動指導員研修会

・出席科目コード：414

・事業内訳：0304

・補足コード：3759（外部指導者研修会）
- その他

（1）本研修会へ参加できない場合については、市町村立学校は市町村教育委員会を通して、県立学校は所属校を通して、**別紙の欠席連絡を9月19日（金）までに（急遽、欠席となった場合は分り次第速やかに）**高知県教育委員会事務局保健体育課の担当まで必ず提出してください。なお、本研修会を欠席した場合は、オンデマンドでの研修を予定しています。その実施方法等については、後日文書にて通知いたします。

（2）当日は駐車場の数に限りがありますので、可能な限り乗り合わせ等でご参加くださいますようお願いいたします。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

地域クラブ、中学校、スポーツ関係団体との連絡調整を密にし、休日、平日の活動の対応を図る。

取組の成果

クラブ所属生徒の中学校とは、顧問や校長との連絡調整の中で対応しており、専属での連絡調整教諭は配置できていない。

今後の取組における課題

検討会議等において情報共有はしているものの、地域連携・地域展開を円滑に進めるためには、現状や今後の方向性を同じ目線で共有した中での関係団体との連携が必要となっている。

課題への対応方針

国や県のガイドラインに基づき、令和8年度以降に取組む具体的な方針を3月（予定）に策定するため、方向性を共有し対応する。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

スポーツ関係団体やスポーツ推進委員の活動も参考にしながら、市の検討委員会にて、競技の専門的な指導だけではなく生徒の活動の見守りや、新たな活動スタイル（競技志向・エンジョイ志向（複数の種目が経験できる活動））等の方向性も検討した。

令和7年度
第1回
四万十市における中学校部活動地域移行検討委員会
（会議資料）

●日 時 令和7年9月30日（火）18：00～

●場 所 四万十市役所6階 第1・第2委員会室

四万十市教育委員会
学校教育課・生涯学習課

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本市の中学校地域移行を進めていくにあたり、令和5年度に立ち上げた検討委員会（中学校長・PTA会長・スポーツ協会・スポーツ少年団協議会、文化協会の代表者で構成）において、地域連携・地域移行の効果や課題、国・県の動向について共有するとともに今後の進め方を協議し、地域クラブの運営、拠点校方式の導入や部活動指導員の配置等、できることから少しずつ取組んできた。

これまで学校で行ってきた部活動を地域に移行するというこれまでにない試みで、学校現場や各世代で思い入れや考え方がある中、実証事業を通じて、学校ではない地域の指導者による活動の難しさ等多くの課題が把握できた。

令和7年度の検討委員会において、国・県が示すガイドライン等を受けての意見聴取を行い、令和8年度以降の地域展開に向けて本市の方向性を決定することとしており、今後公的支援を含めて具体的に進めていく必要がある。取組んでいく間にも様々な課題が浮き彫りとなることは想定されるため、一つずつ解決し、中学生として過ごす貴重な時期に、またこれからの生涯学習の観点からも子供たちがスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保していきたい。

●成果の評価

学校に部活動を残し、平日学校、休日地域クラブというスタイルでスタートしたが、本年度は休日に加えて平日の活動も実施する中で、地域クラブで子供達が継続的に活動に親しむ機会が確保されたことは成果である。また様々な障壁がある中、本市の地域クラブの先駆的なモデルとして、勝利至上主義ではなく初心者から経験者まで受け入れ、スポーツを通した自立心や社会性、人間性の育成を目的に活動しており、設立2年目にして全国大会出場を果たした。市内外での認知度も高まってきており、部員も約30人となっている。しかしながら、地域の方が主体となるが故の負担（特に現役世代）や指導者への謝金の捻出、練習場所や大会参加にかかる移動手段等持続可能な運営に向けての課題は多い。

●今後に向けて

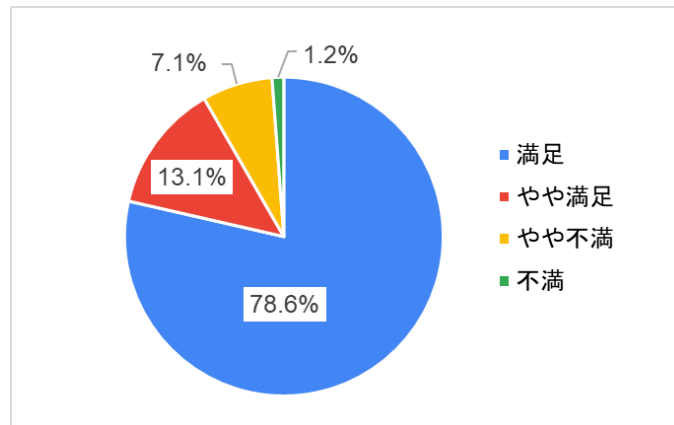
令和6年度からスタートした地域クラブ活動（ソフトテニス競技）の実証事業により、地域クラブを取り巻く環境に始まり、クラブ運営費や移動手段等多くの課題が浮き彫りとなった。持続可能な運営体制を確立するには、受益者負担（可能な限り低廉な単価設定）とのバランスを取りながら収益構造を検証し、適切な公的支援を行っていく必要がある。今後、他の種目も含めて地域展開に取組んでいくにあたり、できることから課題解決し、地域の方の協力を得ながら将来にわたって子供たちがスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保・充実していきたい。

2.実証内容と成果②

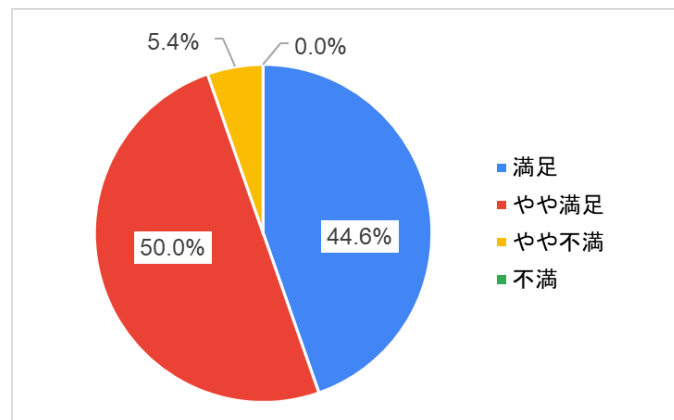
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

Q.現在の地域クラブ等に満足しているか？（中学1・2年生）



Q.現在の地域クラブ等に満足しているか？（中学1・2年生保護者）



●参加者/関係者の声

①参加した生徒

ジュニア経験者がいる中で最初は不安があったが、初心者でも参加しやすい雰囲気、テニスの楽しさや技術だけでなく、コミュニケーションの取り方等学校では経験できないことを多く学ぶことができた。諦めず頑張ってきたことが自分の強みになった。

②参加した生徒

初心者関係なく基礎から教えてくれて、キャプテンを筆頭に皆で盛り上げて楽しく活動ができている。技術面だけでなく、礼儀や人との関わり等精神面も鍛えられ、できるようになった瞬間が一番の喜びで、日々成長できていると感じられる。

③指導者

未経験者の頑張りにより結果が出たこと、また不登校気味の生徒は活動を通して成長し、通学できるようになったり、高校でも続けたいと意欲を持ってくれるようになった。子供の日々の成長を感じている。

④参加生徒の保護者

技術はもちろん礼儀や周りを見る力を一番大事なことから指導してくれ成長を感じている。上手な子だけでなく初心者にも丁寧に見てくれ、責任感や努力をすること、何より楽しんで生き生きしている姿がいい環境だという証拠で安心して預けられる。

2.実証内容と成果③

参考資料



【部員集合写真】



【四国中学校総合体育大会】



【行事：親子テニス】



【全国中学校ソフトテニス大会】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

受け皿団体や
指導者の選定

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和6年

地域クラブ活動
の開始

令和7年

地域クラブ活動
の体制整備

地域クラブ活動 S×CREW（ソフトテニス男子・女子）

地域的にソフトテニス盛んな地域ではあったが、近年の少子化の影響を受け、学校単位では部活動として成り立たない学校も出てきていた中、元々部活動の外部指導員であった指導者がクラブを結成し、本市から国実証事業を受託する形で令和6年4月に立ち上げることができた。

●実施にあたって生じた課題

学校と地域クラブ両方に活動があるため、学校部活動のみを行う生徒や顧問との人間関係がスムーズにいかないこともあり、生徒が不安を抱く面が見られた。また中学校によって、地域クラブの考え方や向き合い方に差を感じることがあり、学校や保護者、地域への周知を徹底する必要を感じた。

●実施内容、工夫した点 等

学校に部活動を残して、平日学校、休日地域クラブというスタイルで指導者4名、生徒31名でスタートした。指導者は公認コーチ資格を取得し、令和7年度は平日3日、休日2日で活動している。

令和5年度 四万十市における中学校部活動地域移行検討委員会を設立

○検討委員会委員：中学校長・PTA会長（中村中・中村西中・西土佐中）、市スポーツ協会、市スポーツ少年団協議会、市文化協会の代表者

○検討委員会（2回実施：令和5年11月13日、令和6年3月1日）

検討委員会設置要綱の制定、地域移行の現状等、市内中学校の現状分析、地域連携・地域移行推進計画の策定、次年度事業（地域クラブ国実証事業、拠点校部活動導入）について協議

○委託予定団体S×CREWとの協議（7回）

○ソフトテニス部保護者説明会（中村中、中村西中）

令和6年度

○検討委員会（2回実施：令和6年7月30日、令和7年1月31日）

国・県の動向について、本市の現状、競技別方向性の検討（拠点校部活動）、地域コーディネーターの導入検討、拠点校部活動・部活動指導員配置、新たなクラブ創設に向けた動きについて協議

・地域クラブ（ソフトテニス男子・女子）国実証事業

・地域連携（バレーボール男子）拠点校部活動

・部活動指導員5名配置（相撲、陸上、バスケットボール、卓球2）

○スポーツ関係団体に地域移行に関するアンケート調査

○委託団体S×CREWとの協議（5回）

○市HPでS×CREWの活動を紹介

令和7年度

○検討委員会（1回実施：令和7年9月30日）

※3月に2回目開催予定

国・県の動向について、本市の現状、令和8年度以降の方向性について協議

・地域クラブ（ソフトテニス男子・女子）国実証事業

・地域連携（バレー他3種目）拠点校部活動

・部活動指導員6名配置（相撲、陸上、バスケットボール、卓球2、吹奏楽部）

○委託団体S×CREWとの協議（随時）

○市HPでS×CREWの活動を紹介

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

四万十市部活動地域連携・地域移行推進計画（令和6年3月策定）

- 「改革推進期間」における取組の方向性及び概要
令和8年度以降の国のガイドラインに向けて、本市では以下のスケジュールで方向性の決定を行う。

令和5年度	①検討委員会の設置、開催（2回） ②実証事業に向けた競技団体等との調整 ③体制整備に向けた財源の確保 等	令和8年度の目指すべき姿及び目標 令和6年度から令和7年度にかけて、実証事業及び拠点校方式による部分的試行を進め、令和8年度以降の国のガイドラインの見直し等、各市町村の取組状況を踏まえ休日の地域連携・地域移行の方向性を示す。
令和6年度	①検討委員会の開催（年2回開催予定） ・実証事業の現状と検証 ・競技別可能性の調査結果の報告と今後の方向性について ・事業計画：アクションプランの作成・見直し ・競技別地域連携・移行の推進における協議 ②実証事業による地域連携・地域移行に係る課題の洗い出し ③地域連携・地域移行統括コーディネーターの導入検討	
令和7年度	①検討委員会の開催（年2回開催予定） ・実証事業の現状と検証結果報告 ・競技別地域連携・移行の促進結果報告 ・令和8年度以降の方向性決定に向けた協議 ・令和8年度以降の事業計画：アクションプランの作成 ②実証事業による課題等の集約 ③令和8年度以降の方向性の決定、推進計画の作成	